



県政世論調査

平成 29 年度

概要報告書



静 岡 県

目 次

	目次
調査の概要	1
(生活についての意識)	
暮らし向き	2
日常生活の悩みや不安	3
静岡県の住みよさ	4
(県の仕事に対する関心)	
県政への関心度	5
行政機関への意見や要望、不満	6
広報媒体の浸透度	8
日常の課題や生活における意識	11
県民幸福度に関する意識	24
自殺対策に関する意識	25
静岡県の社会資本整備に関する意識	26

調査の概要

1 調査の目的

県民の生活についての意識、県政の主要課題についての意識などを把握し、県政推進のための基礎的な資料とする。

2 調査の内容

- (1) 生活についての意識
- (2) 県の仕事に対する関心
- (3) 県民幸福度に関する意識
- (4) 自殺対策に関する意識
- (5) 静岡県社会資本整備に関する意識

3 調査の設計

- 調査地域 静岡県全域
- 調査対象 県内在住の満18歳以上の男女個人
- 標本数 4,000
- 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- 調査方法 郵送法（配布及び回収）
- 調査時期 平成29年6月21日～7月4日
- 調査機関 株式会社e-エントリー

4 回収結果

	18歳以上の 推定人口	標本数	回収率 (%)	有効回収率 (%)
東 部	1,031,110	1,320	661 (50.1)	658 (49.8)
中 部	986,785	1,280	617 (48.2)	615 (48.0)
西 部	1,088,356	1,400	717 (51.2)	717 (51.2)
地域不明			53 (—)	53 (—)
全 県	3,106,251	4,000	2,048 (51.2)	2,043 (51.1)

この冊子の読みかた

- 1 結果は百分率で表示し、小数第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
- 2 回答結果は2,046を100%として示した。なお一部の方に対する質問では、質問該当者を100%とするのを原則とした。(静岡県の人口構成比に即した補正を行っているため、有効回収数と一致していない)
- 3 グラフの中の「n」(number of caseの略)は回答者総数(あるいは分類別の該当者数)を示し、質問の「SQ」(Sub-Questionの略)は前問で特定の回答をした一部の回答者のみに続けて行った質問であり、末尾に(M. A.)(Multiple Answersの略)とあるのは、1人の対象者に2つ以上の回答を認めたもので、その百分率の合計は100%を超える場合がある。

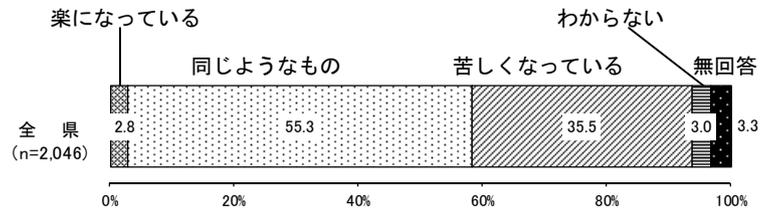
暮らし向き — 「苦しくなっている」という人が 35.5%、60代は 40.7%

Q1 お宅の暮らし向きは、去年の今頃とくらべて楽になっていますか、苦しくなっていますか、同じようなものですか。

SQ お宅の暮らし向きが「苦しくなっている」とお感じの理由はなんですか。(3M.A.)

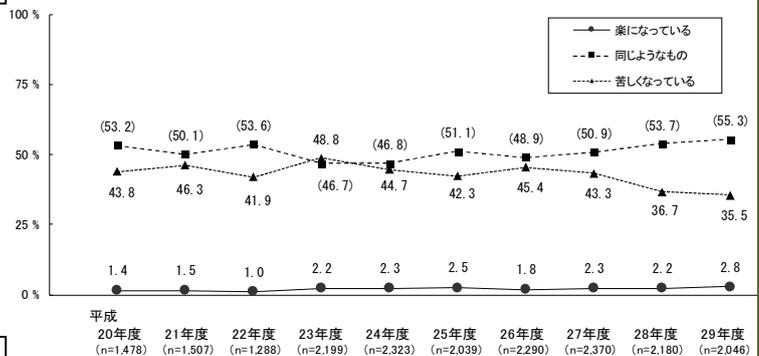
暮らし向き

- 暮らし向きが「同じようなもの」と回答している人は 55.3%、「苦しくなっている」人は 35.5%となっている。



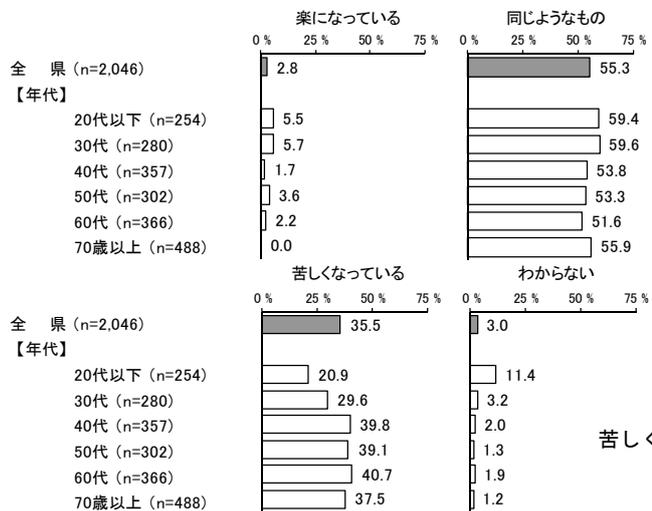
経年比較

- 平成 20 年度以降の推移でみると、平成 26 年度以降、「同じようなもの」と回答した人の割合が徐々に高くなっている。「苦しくなっている」は、4 割台で推移していたが、前年度から 2 年連続で 3 割台となっている。



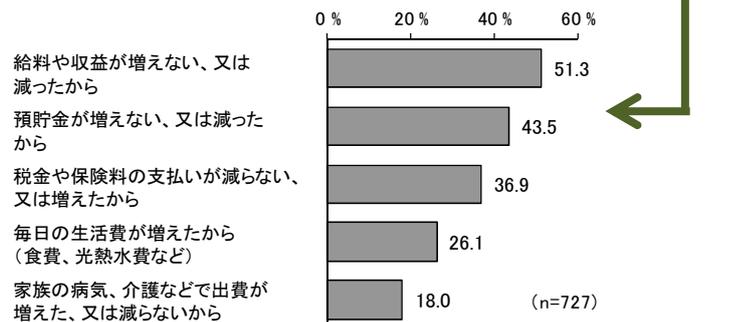
年代別

- 「楽になっている」は、『20 代以下』(5.5%)、『30 代』(5.7%) で高くなっている。また、「苦しくなっている」は、『40 代』以上で 4 割前後と高くなっている。



SQ 苦しくなっている理由

- 暮らし向きが「苦しくなっている」と回答した人に、その理由について尋ねたところ、「給料や収益が増えない、又は減ったから」が 51.3%で最も高く、以下、「預貯金が増えない、又は減ったから」、「税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから」、「毎日の生活費が増えたから（食費、光熱水費など）」の順となっている。(右図は上位 5 位)



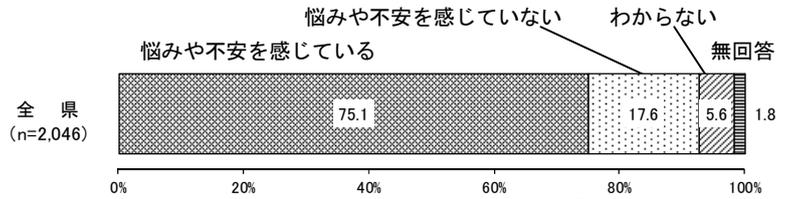
日常生活の悩みや不安 — 「悩みや不安を感じている」人が 75.1%

Q2 あなたは、日常生活の中で、悩みや不安を感じていますか。それとも特に悩みや不安を感じていませんか。

SQ 悩みや不安を感じていることは、どのようなことですか。(M.A.)

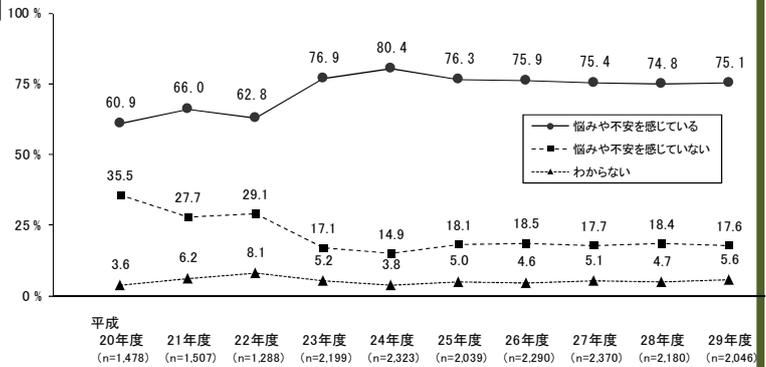
日常生活の悩みや不安

- 日常生活の中で「悩みや不安を感じている」人は 75.1%と、4人に3人の割合となっている。



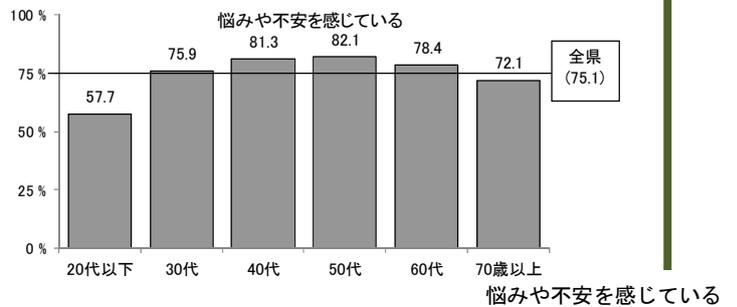
経年比較

- 平成 22 年度以前は、「悩みや不安を感じている」が 6 割前後で推移していたものの、平成 23 年度以降においては、7 割台で推移している。



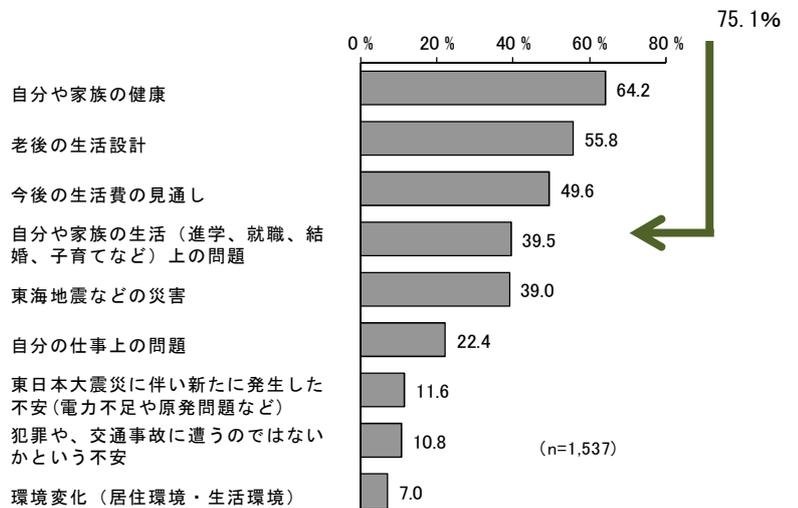
年代別

- 「悩みや不安を感じている」が、『40代』、『50代』においては、8割を上回っている。



SQ 悩みや不安の内容

- 日常生活の中で「悩みや不安を感じている」と回答した人に、その内容について尋ねたところ、「自分や家族の健康」が 64.2%と 6 割を超え最も高く、以下、「老後の生活設計」、「今後の生活費の見通し」の順になっている。(右図は「その他」を除く)



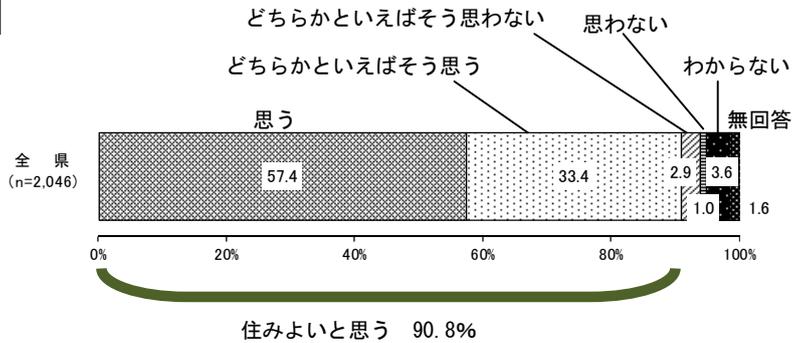
静岡県の住みよさ —住みよいところだと「思う」人が90.8%

Q3 あなたは、静岡県は住みよいところだと思いますか。

SQ あなたが、静岡県は住みよいところだと思う理由はなんですか。(3.M.A.)

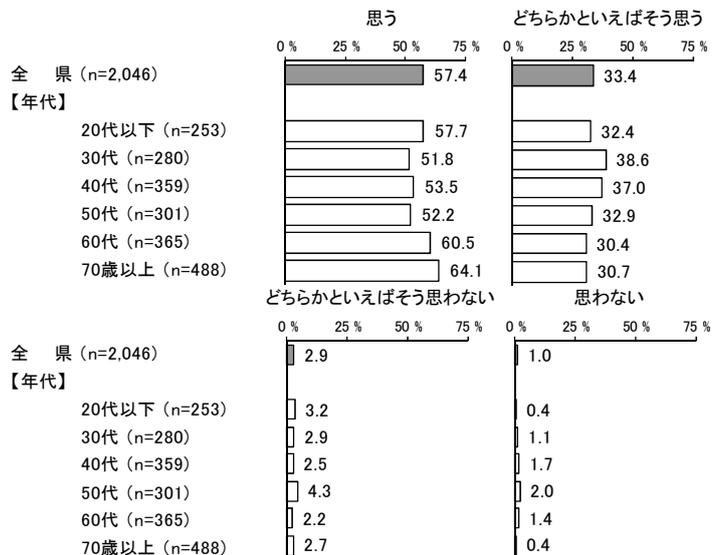
静岡県の住みよさ

●静岡県は住みよいところだと思うかについては、「思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた90.8%が、静岡県は住みよいところだと思うと回答している。



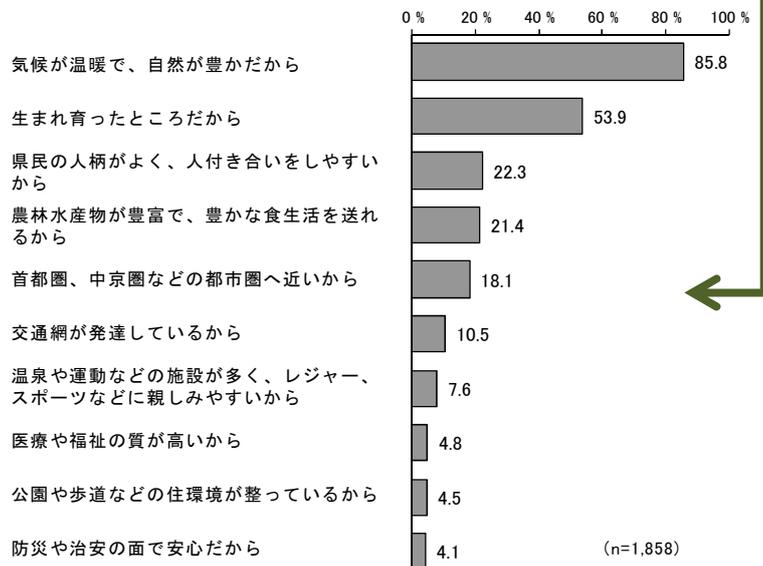
年代別

●静岡県は住みよいところだと「思う」と回答した人は、『30代』、『40代』、『50代』において、やや低く、『60代』、『70代以上』において6割を超えて高くなっている。



SQ 住みよいところだと思う理由

●静岡県は住みよいところだ「思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答した人に、その理由についてたずねたところ、「気候が温暖で、自然が豊かだから」が85.8%と8割を超えて最も高く、以下、「生まれ育ったところだから」、「県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから」、「農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから」の順になっている。(右図は上位10位)



県政への関心度 — 県政に「関心がある」人は 57.7%

Q4 あなたは、県の政治や行政にどの程度関心がありますか。
SQ1 県政に関心がある理由はなんですか。
SQ2 県政に関心がない理由はなんですか。

県政への関心度

● 県政に「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせた 57.7%が、関心があると回答している。

経年比較

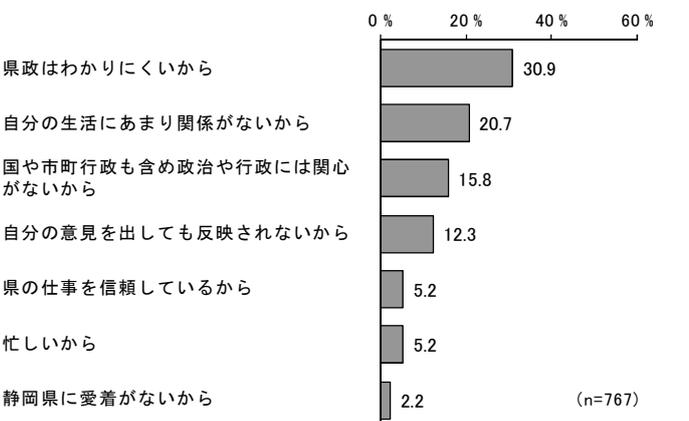
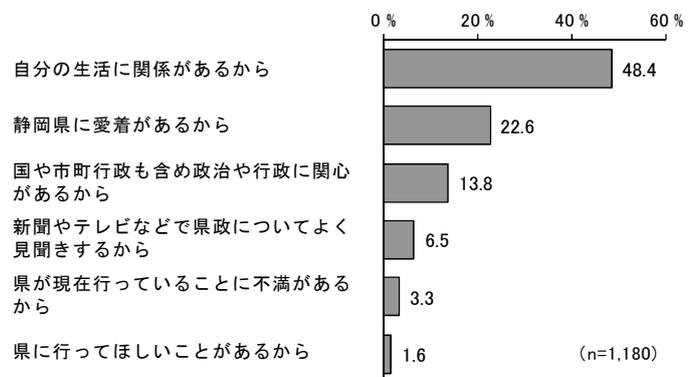
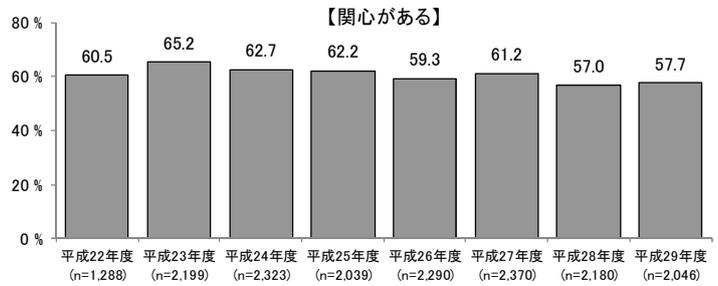
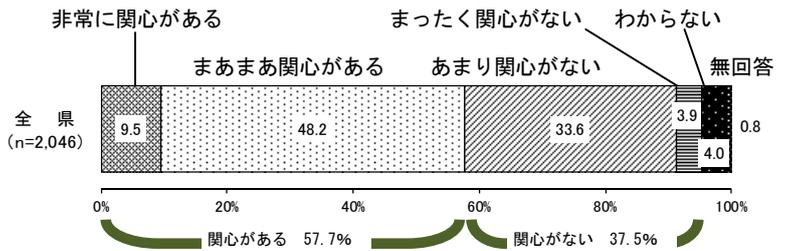
● 平成 24 年度以降、「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせた割合は 6 割前後で推移していたが、前年度から 2 年連続で 6 割を下回っている。

SQ1 関心のある理由

● 県政に「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」と回答した人にその理由について尋ねたところ、「自分の生活に関係があるから」が 48.4%と最も高く、以下、「静岡県に愛着があるから」、「国や市町行政も含め政治や行政に関心があるから」の順になっている。（右図は「その他」を除く）

SQ2 関心がない理由

● 県政に「まったく関心がない」と「あまり関心がない」と回答した人にその理由について尋ねたところ、「県政はわかりにくいから」が 30.9%と最も高く、以下、「自分の生活にあまり関係がないから」、「国や市町行政も含め政治や行政には関心がないから」、「自分の意見を出しても反映されないから」の順になっている。（右図は「その他」を除く）



行政機関への意見や要望、不満

— 行政機関への意見や要望、不満が「ある」人は42.3%

Q5 あなたは、この1年間に行政機関の仕事について、意見や要望を持ったり、不満を感じたことがありますか。

SQ1 それは、どの行政機関が担当する仕事ですか。(M.A.)

SQ2 その県が担当する仕事についての意見や要望、不満は、県に伝える必要があると思いませんか。

SQ3 それでは、そのことを県に伝えましたか。

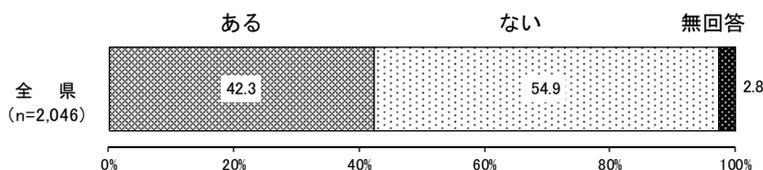
SQ4 どのような手段で伝えましたか。(M.A.)

SQ5 意見や要望及び不満があっても、県に伝えなかった主な理由は何ですか。

SQ6 どうしてそのように(「伝えても無駄だと思ったから」)思ったのですか。

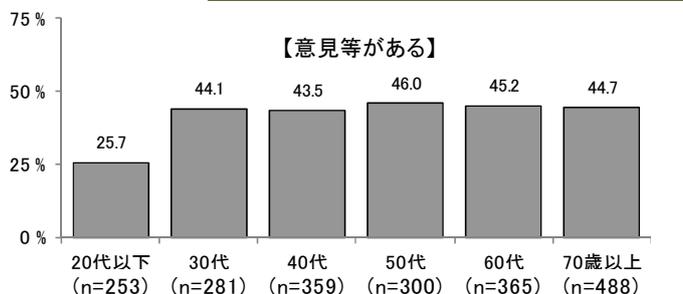
行政機関への意見や要望、不満

- 行政機関の仕事に対して、意見や要望、不満が「ある」と回答した人は42.3%となっている。



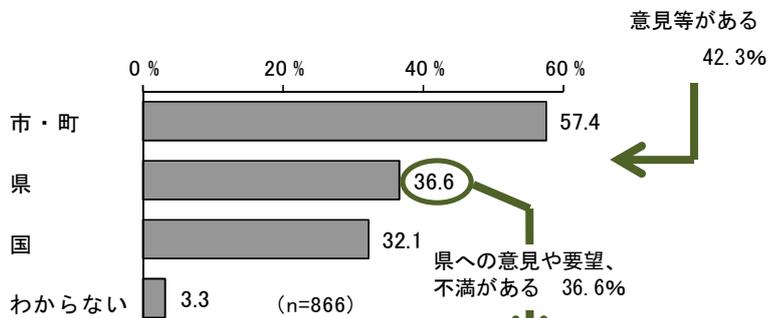
年代別

- 行政機関の仕事に対して、意見や要望、不満が「ある」と回答した人は、『20代以下』で25.7%と、3割を下回っている。



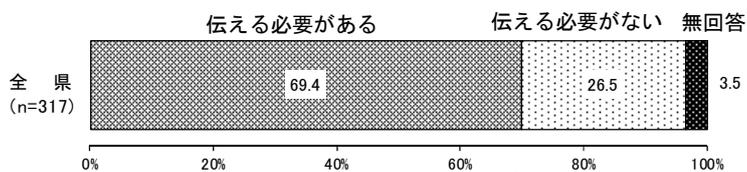
SQ1 担当する行政機関

- 行政機関の仕事に対して、意見や要望、不満が「ある」と回答した人に、どの行政機関が担当している仕事をたずねたところ、「市・町」が57.4%と最も高く、以下、「県」、「国」の順になっている。



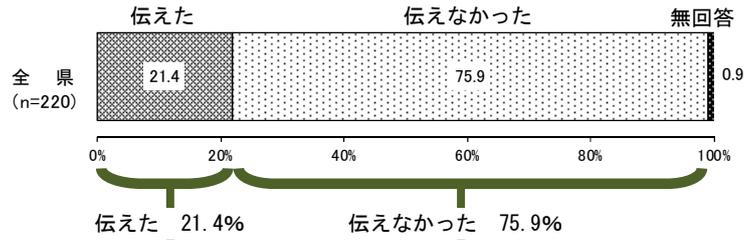
SQ2 伝達の必要性の有無

- 県の仕事に対して、意見や要望、不満が「ある」と回答した人に、県への伝達の必要性の有無をたずねたところ、「伝える必要がある」人は69.4%となっている。



SQ3 伝達の有無

●県の仕事に対して、意見や要望、不満が「ある」と回答した人に、県への伝達の有無をたずねたところ、県に「伝えた」人は21.4%となっている。



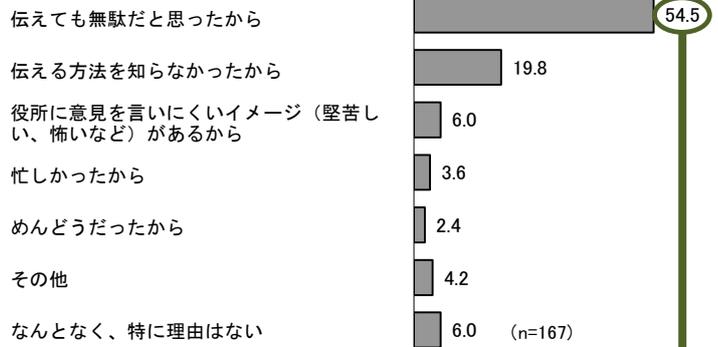
SQ4 伝達方法

●県の仕事に対して意見や要望、不満が「ある」人のうち、そのことを県に「伝えた」人のうち、その方法をたずねたところ、「県議会議員を通じて」が31.9%と最も高く、以下、「直接職員に伝えた（県庁や県の出先機関の窓口に向く、職員の訪問など）」、「町内会・自治会、地元の有力者などを通じて」、「市役所・町役場、国の機関などを通じて」、「電話をかけて伝えた」、「民間が実施した調査や署名活動などを通じて」、「手紙、電子メール、ファクシミリで伝えた」、「県ホームページから投稿して伝えた」、「県民のこえ意見箱（注1）を利用して伝えた」、「県が実施した県政に関するアンケート調査などへの回答を通じて」の順になっている。（右図は上位10位）



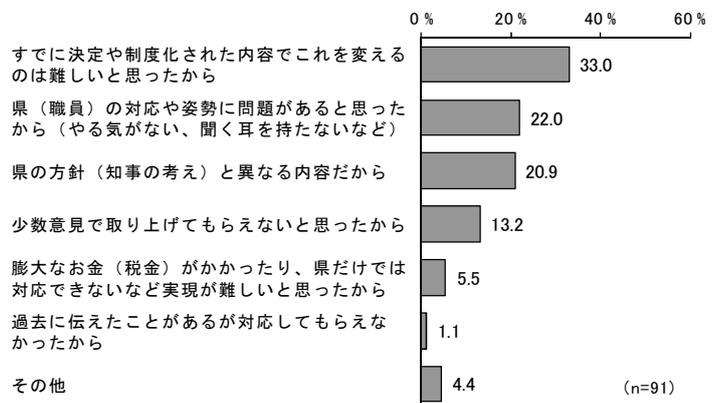
SQ5 伝達しなかった理由

●県の仕事に対して意見や要望、不満が「ある」人のうち、そのことを県に「伝えなかった」人に、その理由をたずねたところ、「伝えても無駄だと思ったから」が54.5%と最も高く、以下、「伝える方法を知らなかったから」、「役所に意見を言いにくいイメージ（堅苦しい、怖いなど）があるから」の順になっている。



SQ6 「伝えても無駄だと思った」理由

●伝えなかった理由を「伝えても無駄だと思った」と回答した人に、その理由をたずねたところ、「すでに決定や制度化された内容でこれを変えるのは難しいと思ったから」が33.0%と最も高く、以下、「県（職員）の対応や姿勢に問題があると思ったから（やる気がない、聞く耳を持たないなど）」の順になっている。



広報媒体の浸透度

——「県民だより」を読んでいる人は52.8%、

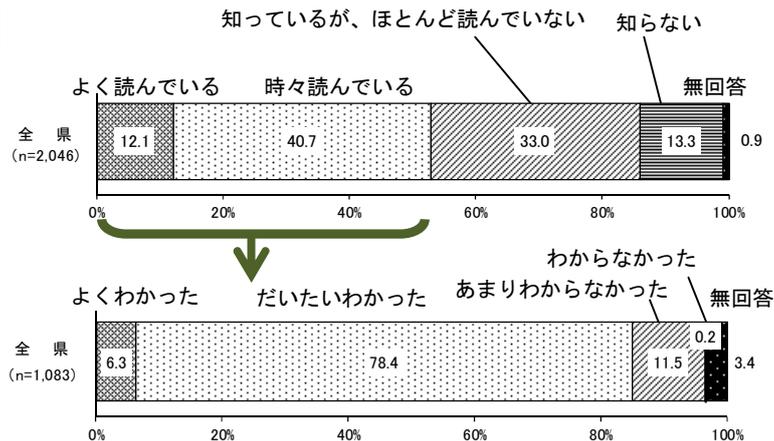
「テレビ広報番組・コマーシャル」を見た人は28.6%——

Q6 あなたは、次にあげる県の広報を読んだり、見たり聞いたりしたことがありますか。

SQ 内容はわかりやすかったですか。

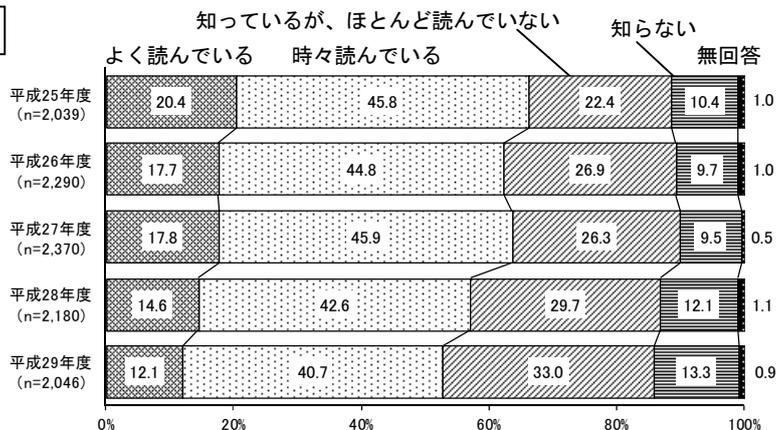
県民だより

- 「よく読んでいる」と「時々読んでいる」を合わせた52.8%が、県民だよりを読んでいる。
- 「よく読んでいる」と「時々読んでいる」と回答した人に、そのわかりやすさをたずねたところ、「よくわかった」と「だいたいわかった」を合わせた人の割合は84.7%であった。



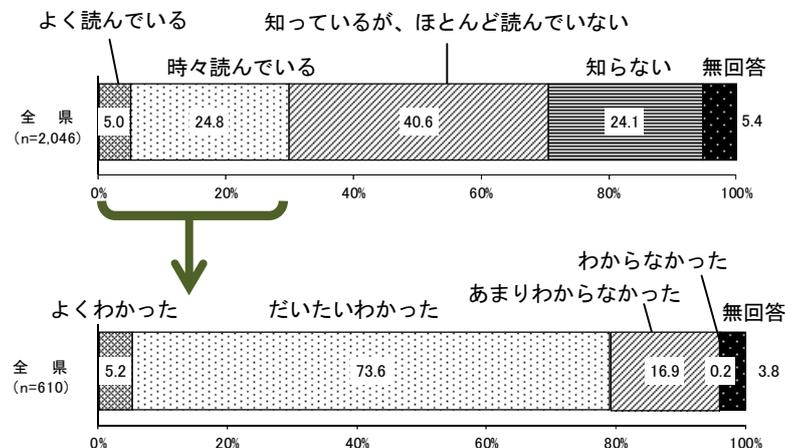
経年比較

- 平成25年度以降「よく読んでいる」と「時々読んでいる」を合わせた人の割合は、6割台で推移していたが、前年度から2年連続で6割を下回っている。



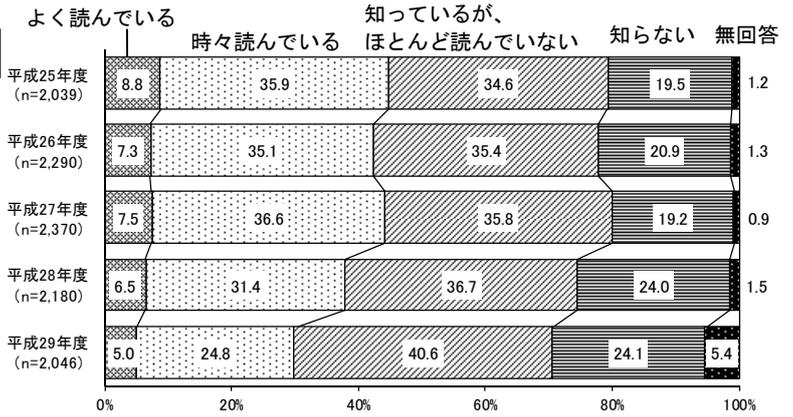
静岡県議会だより

- 「よく読んでいる」と「時々読んでいる」を合わせた29.8%が、静岡県議会だよりを読んでいる。
- 「よく読んでいる」と「時々読んでいる」と回答した人に、そのわかりやすさをたずねたところ、「よくわかった」と「だいたいわかった」を合わせた人の割合は78.8%であった。



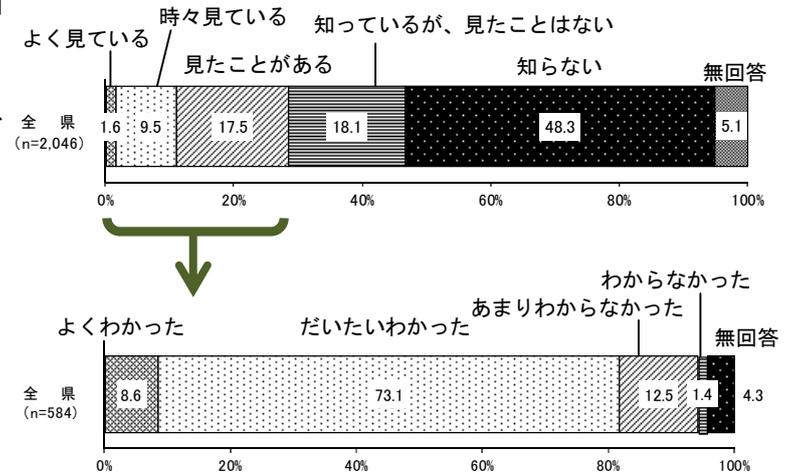
経年比較

- 平成25年度以降「よく読んでいる」と「時々読んでいる」を合わせた人の割合は4割台で推移していたが、前年度に4割を下回り、今年度は更に低くなり、3割を下回っている。



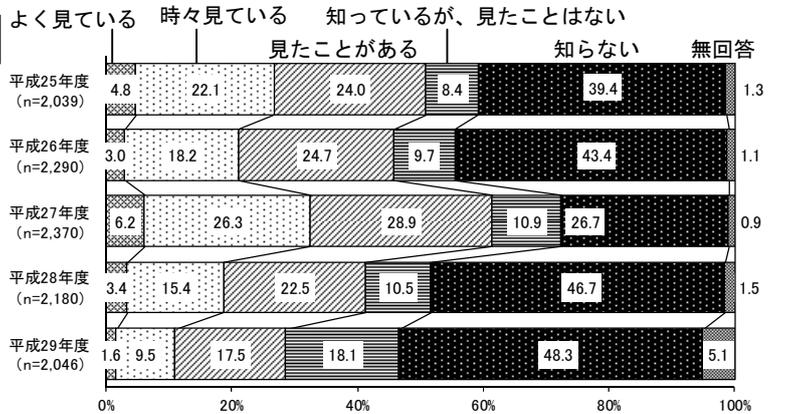
テレビ広報番組・テレビコマーシャル

- 「よく見ている」と「時々見ている」、「見たことがある」を合わせた28.6%が、テレビ広報番組・テレビコマーシャルを見ている。
- 「よく見ている」、「時々見ている」、「見たことがある」と回答した人に、そのわかりやすさをたずねたところ、「よくわかった」と「だいたいわかった」を合わせた人の割合は81.7%であった。



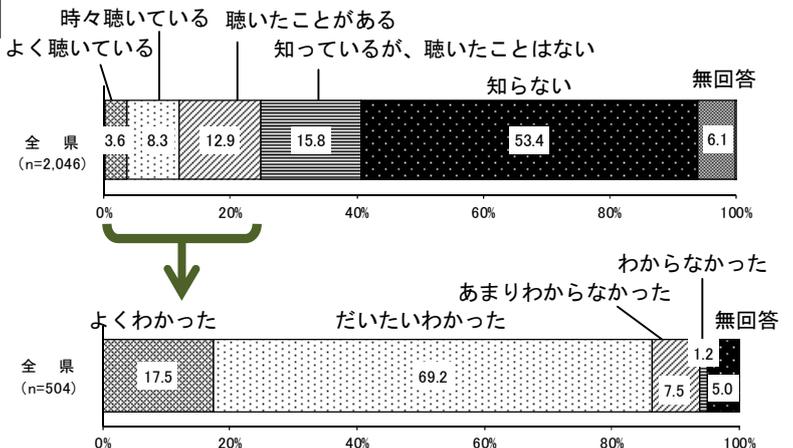
経年比較

- テレビ広報番組・テレビコマーシャルを「よく見ている」、「時々見ている」、「見たことがある」人の割合は、平成27年度と比較すると、32.8ポイント低くなっている。



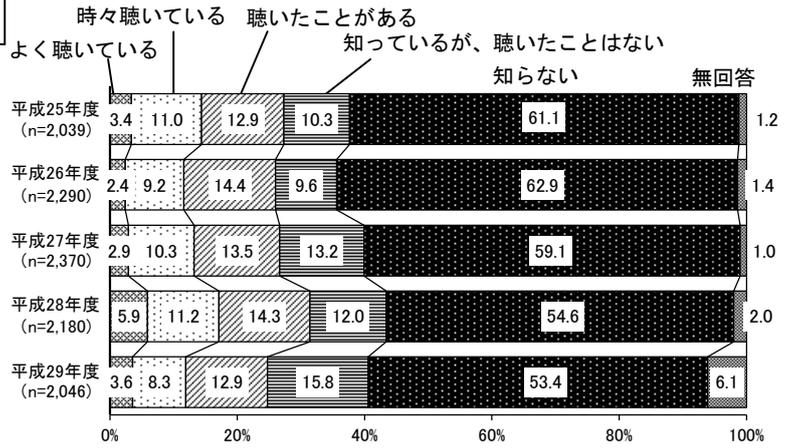
ラジオ広報

- 「よく聴いている」、「時々聴いている」、「聴いたことがある」を合わせた24.8%が、ラジオ広報を聴いている。
- 「よく聴いている」、「時々聴いている」、「聴いたことがある」と回答した人に、そのわかりやすさをたずねたところ、「よくわかった」と「だいたいわかった」を合わせた人の割合は86.7%であった。



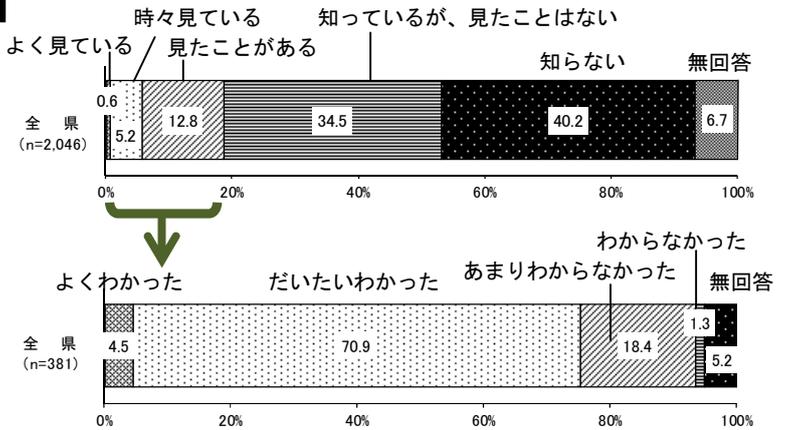
経年比較

- ラジオ広報を「よく聴いている」、「時々聴いている」、「聴いたことがある」を合わせた人の割合は、平成28年度に3割を超えたが、今年度は2割台となっている。



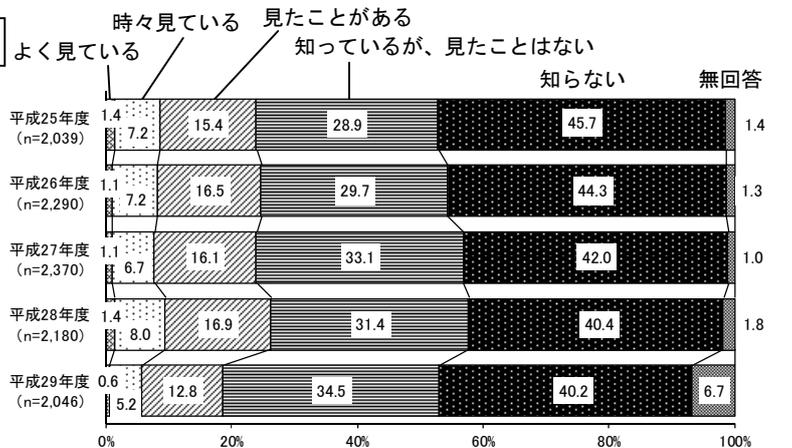
県のホームページ

- 「よく見ている」、「時々見ている」、「見たことがある」を合わせた18.6%が、県のホームページを見ている。
- 「よく見ている」、「時々見ている」、「見たことがある」と回答した人に、そのわかりやすさをたずねたところ、「よくわかった」、「だいたいわかった」を合わせた人の割合は75.4%であった。



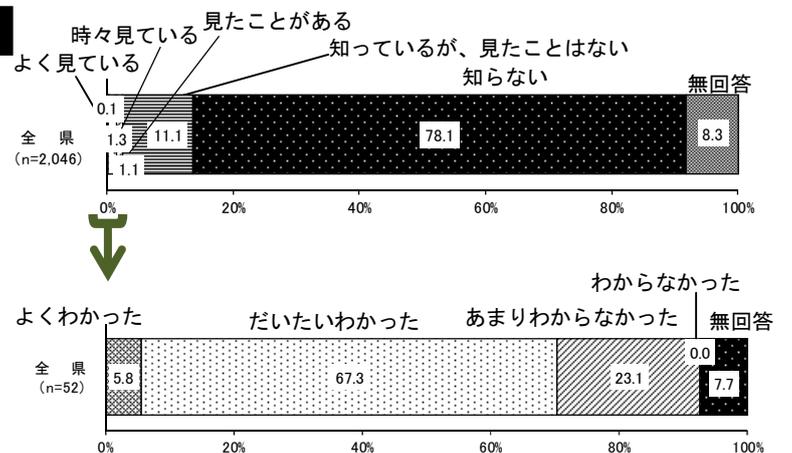
経年比較

- 平成25年度以降、「よく見ている」、「時々見ている」、「見たことがある」を合わせた人の割合は2割台で推移していたが、今年度、2割を下回った。



S N S

- 「よく見ている」、「時々見ている」、「見たことがある」を合わせた2.5%が、県のSNSを見ている。
- 「よく見ている」、「時々見ている」、「見たことがある」と回答した人に、そのわかりやすさをたずねたところ、「よくわかった」、「だいたいわかった」を合わせた人の割合は73.1%であった。

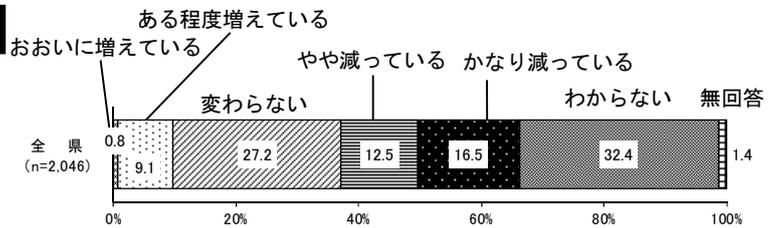


日常の課題や生活における意識

Q7 あなたは、日常生活の中で、思いやりをもって行動できる「有徳の人」が増えていると思いますか。

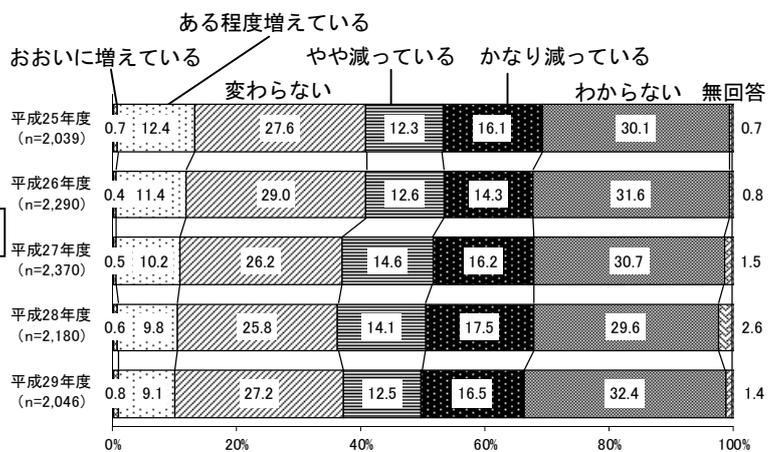
「有徳の人」の増減

- 「おおいに増えている」と「ある程度増えている」を合わせた9.9%が、「有徳の人」が増えていると回答し、「かなり減っている」と「やや減っている」を合わせた29.0%が、「有徳の人」が減っていると回答しており、「有徳の人」が減っていると思う人が、増えていると思う人の3倍になっている。



経年比較

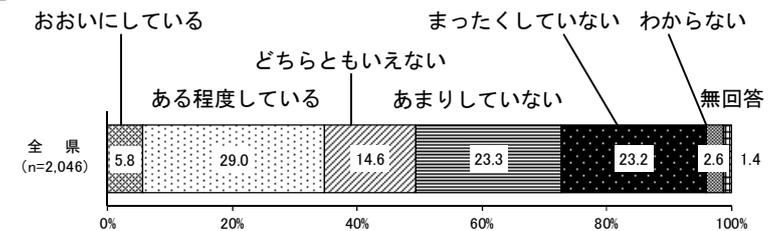
- 平成25年度以降、「おおいに増えている」と「ある程度増えている」を合わせた人の割合は1割前後で推移している。



Q8 あなたは、学問・学習（文）、スポーツ（武）、文化・芸術（芸）のいずれかの分野で、自己を磨く努力をしていますか。

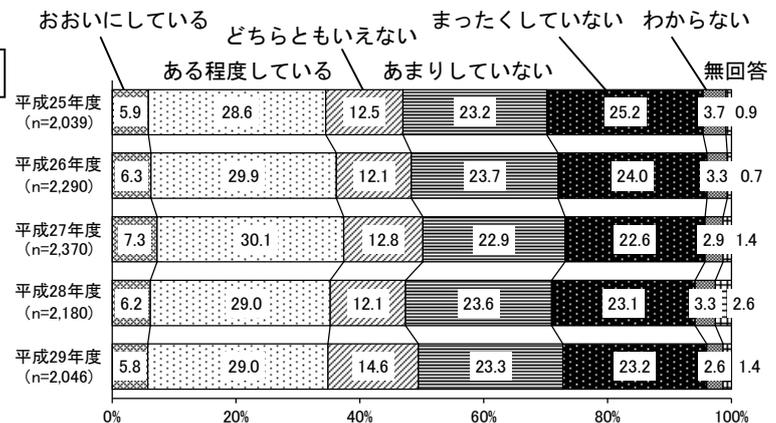
文・武・芸への取組状況

- 「おおいにしている」と「ある程度している」を合わせた34.8%が、文・武・芸を磨く努力をしており、「まったくしていない」と「あまりしていない」を合わせた46.5%が、文・武・芸を磨く努力をしていないとなっている。



経年比較

- 平成25年度以降、「おおいにしている」と「ある程度している」を合わせた割合は3割台で推移している。

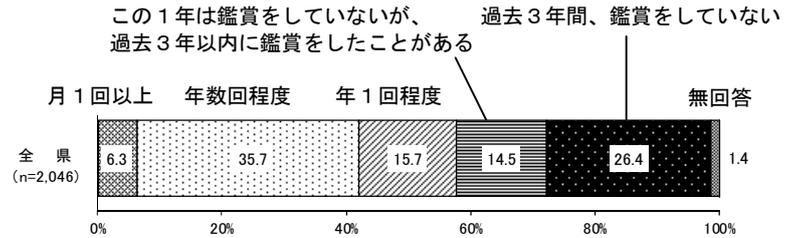


Q9 あなたは、この1年でどのくらい、ホールや劇場、映画館や美術館・博物館などの会場で、文化・芸術を鑑賞しましたか。

※「文化・芸術」とは、芸術（音楽、美術、演劇、舞踊、映画等）、芸能（歌舞伎、能、講談、落語、浪曲、漫才、歌唱等）、文芸（短歌、俳句、詩、小説等）、生活文化（お茶、生け花、手芸等）を意味しています。

文化・芸術の鑑賞

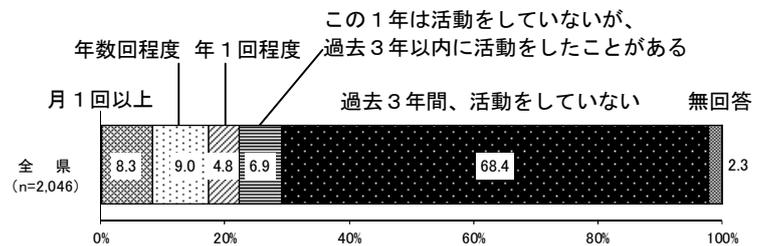
●ここ1年に文化・芸術の鑑賞をした人の割合は57.7%、「この1年は鑑賞をしていないが、過去3年以内に鑑賞をしたことがある」を合わせた、過去3年以内に文化・芸術の鑑賞をした人は72.2%となっている。



Q10 あなたは、この1年でどのくらい、文化・芸術に関することで、個人又はグループで、継続して活動しましたか。

文化・芸術の継続活動

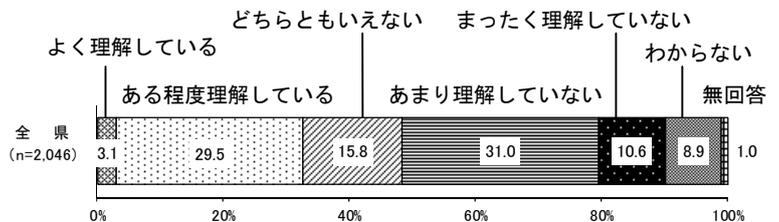
●ここ1年に文化・芸術を継続的に活動した人の割合は22.1%、「この1年は鑑賞をしていないが、過去3年以内に活動をしたことがある」を合わせた、過去3年以内に文化・芸術を継続的に活動した人の割合は29.0%となっている。



Q11 あなたは、原子力発電の仕組みや浜岡原子力発電所でどのような対策が講じられているかについて、どの程度理解していますか。

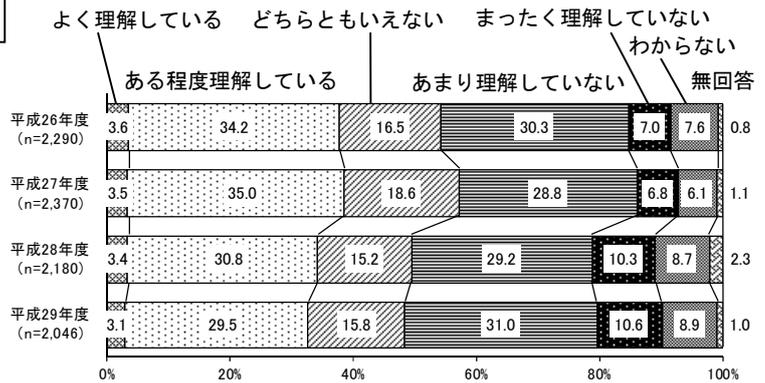
原子力発電の仕組みや対策への理解度

●「よく理解している」と「ある程度理解している」を合わせた理解している人は32.6%、「まったく理解していない」と「あまり理解していない」を合わせた理解していない人は41.6%で、理解していない人が9ポイント高くなっている。



経年比較

●「よく理解している」と「ある程度理解している」を合わせた割合は、平成28年、平成29年度と減少傾向にある。



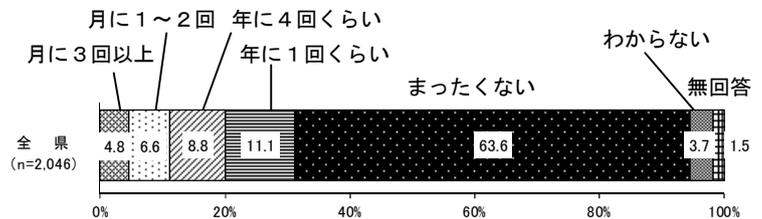
Q12 あなたは、この1年でどのくらい、次にあげるような「子どもをはぐくむ活動」に参加しましたか。

「子どもをはぐくむ活動」の例

- ・PTAや健全育成会、子ども会、ボーイスカウト、スポーツ少年団、子育てサークル等の活動
- ・学校支援活動（家庭科等の授業支援や地域学習等の授業協力、部活動支援、学校行事への協力、放課後の学習支援、花壇の環境整備等）
- ・地域における活動（登下校の見守りや交通安全・防災・防犯等の活動、読み聞かせや音楽・絵画等の活動、自然体験や国際交流等の活動等）

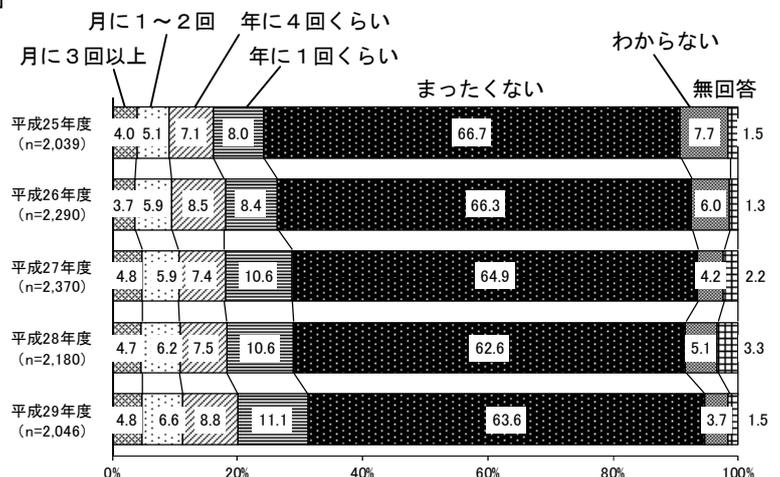
子どもをはぐくむ活動への参加状況

●年に1回以上と回答した人を合わせた割合は31.3%。一方、「まったくない」人は63.6%で、「子どもをはぐくむ活動」をしている人はしていない人の半数となっている。



経年比較

●平成25年度以降、「子どもをはぐくむ活動」をしている人は増加傾向にあり、今年度は3割を超えた。「まったくない」人は平成28年度よりもやや増加している。



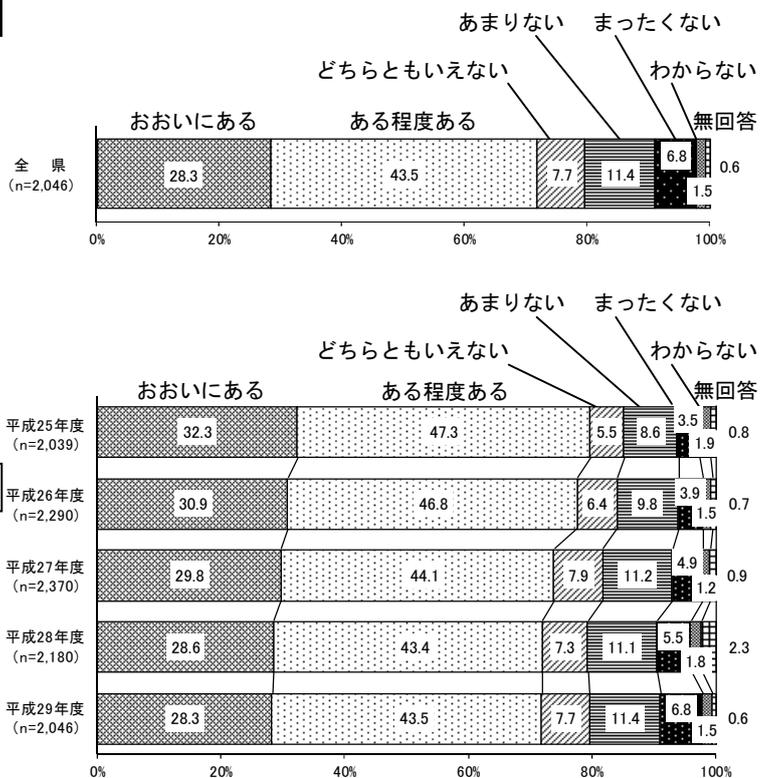
Q13 あなたは、日常生活の中で富士山について、想ったり、考えたりすることはありますか。

富士山への関心

- 「おおいにある」と「ある程度ある」と回答した人を合わせた71.8%が富士山について想ったり、考えたりすることがあるとしている。一方、「まったくない」と「あまりない」を合わせた18.2%は富士山について想ったり、考えたりすることがないとしており、富士山について関心のある人が大幅に上回っている。

経年比較

- 平成25年度以降の推移でみると、「おおいにある」と「ある程度ある」を合わせた割合は、年々減少傾向にある。



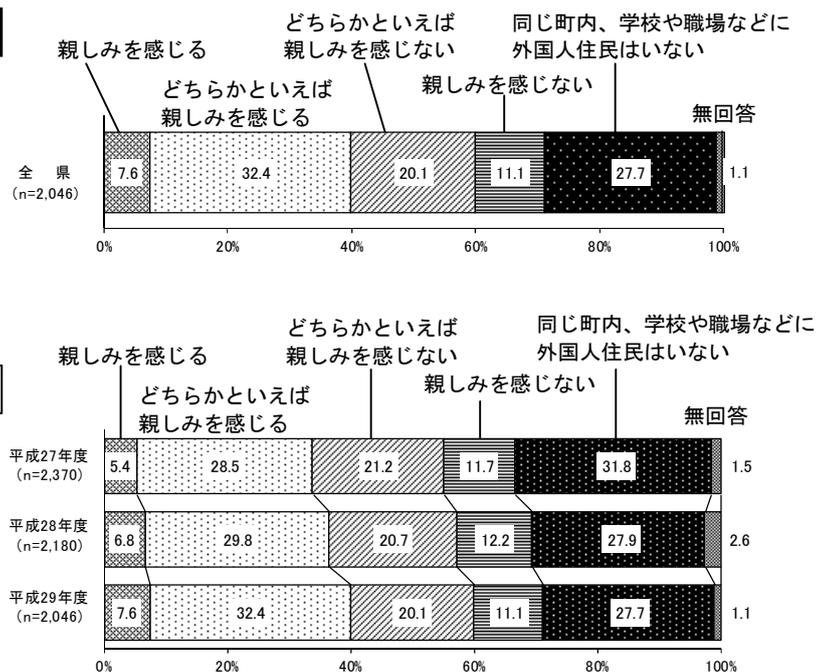
Q14 あなたは、同じ町内、学校や職場など地域で暮らす外国人住民について、どの程度親しみを感じますか。

外国人住民への親しみ

- 「親しみを感ずる」と「どちらかといえば親しみを感ずる」を合わせた40.0%が親しみを感ずっている人で、「どちらかといえば親しみを感ずらない」と「親しみを感ずらない」を合わせた31.2%が親しみを感ずらない人となっている。

経年比較

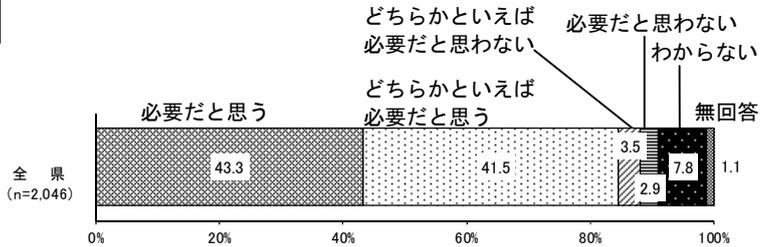
- 「親しみを感ずる」と「どちらかといえば親しみを感ずる」を合わせた割合は、平成27年度から増加傾向にある。「親しみを感ずらない」と「どちらかといえば親しみを感ずらない」を合わせた割合はそれほど変化がない。



Q15 地域や学校、職場などにおいて、日本人も外国人も共に力を発揮しやすい環境づくりが必要だと思いませんか。

多文化共生への環境づくりの必要性

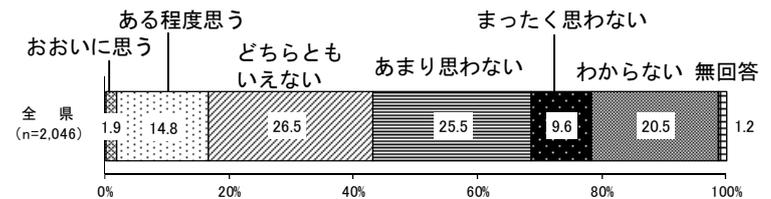
●「必要だと思う」と「どちらかといえば必要だと思う」を合わせた 84.8%が、外国人住民も共に力を発揮しやすい環境づくりが必要だと思う人となった。



Q16 県内のまちのなかで、学生をはじめとした若者の学びや交流・社会活動などによる賑わいが増えていると思いませんか。

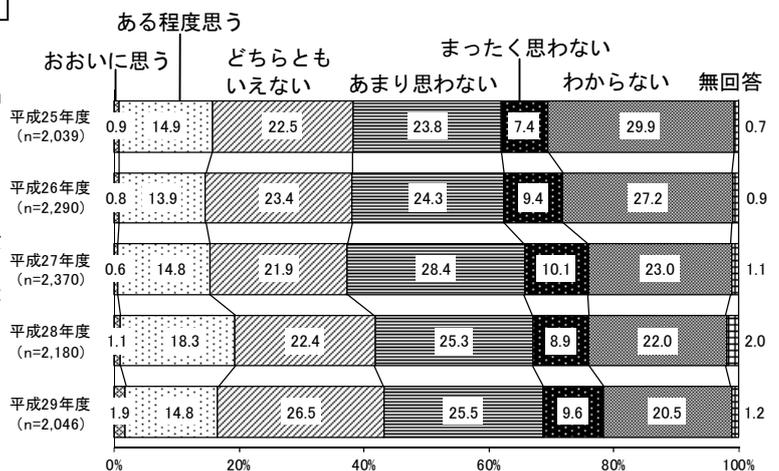
若者の賑わい

●「おおいに思う」と「ある程度思う」を合わせた 16.7%が、若者の賑わいが増えていると思う人、「まったく思わない」と「あまり思わない」を合わせた 35.1%が若者の賑わいが増えているとは思わない人になっている。



経年比較

●前年度から、「おおいに思う」と「ある程度思う」を合わせた若者の賑わいが増えていると思う人の割合は2.7ポイント減少し、「まったく思わない」と「あまり思わない」を合わせた若者の賑わいが増えているとは思わない人の割合はほぼ変わっていない。



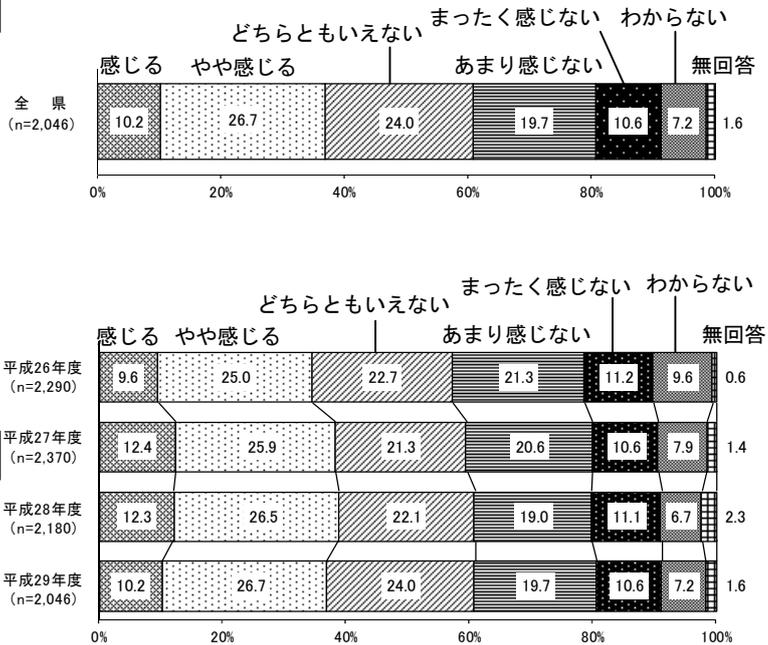
Q17 あなたの生活の中で、「仕事と生活の調和」は実現していると感じますか。

ワーク・ライフ・バランス

●「感じる」と「やや感じる」を合わせた36.9%が、「仕事と生活の調和」は実現していると感じている人、「まったく感じない」と「あまり感じない」を合わせた30.3%が、「仕事と生活の調和」は実現していると感じていない人となっている。

経年比較

●平成26年度以降の推移でみると、大きな差はみられない。



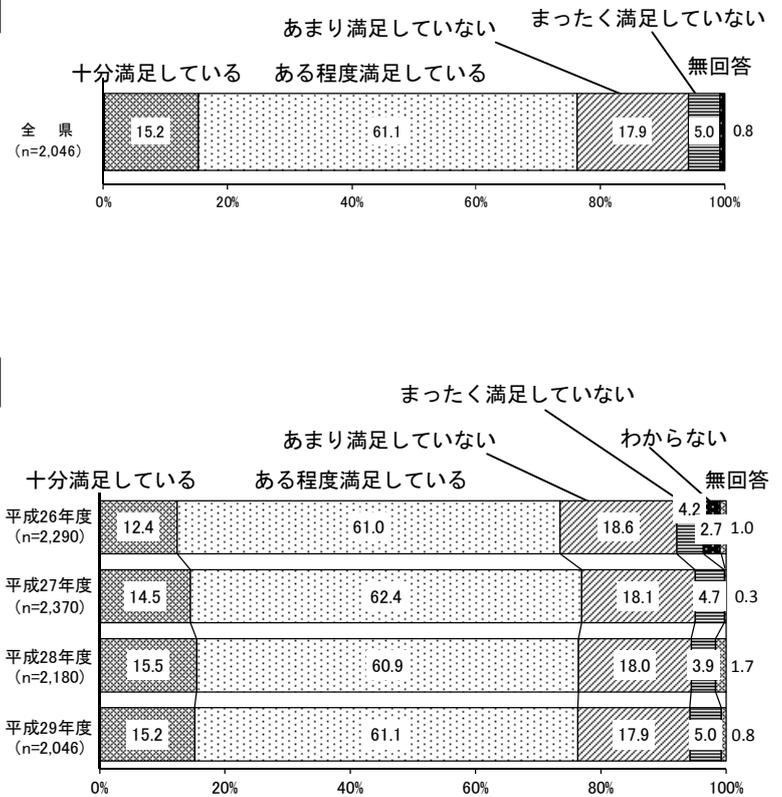
Q18 あなたは、現在お住まいの住宅と、住宅のまわりの環境について、どの程度満足していますか。

住宅・住環境の満足度

●「十分満足している」と「ある程度満足している」を合わせた76.3%が満足している人、「まったく満足していない」と「あまり満足していない」を合わせた割合22.9%が満足していない人となっている。

経年比較

●「十分満足している」と「ある程度満足している」を合わせた満足している人は7割台、「まったく満足していない」と「あまり満足していない」を合わせた満足していない人は2割台で推移している。(注 選択肢「わからない」は平成26年度のみ)



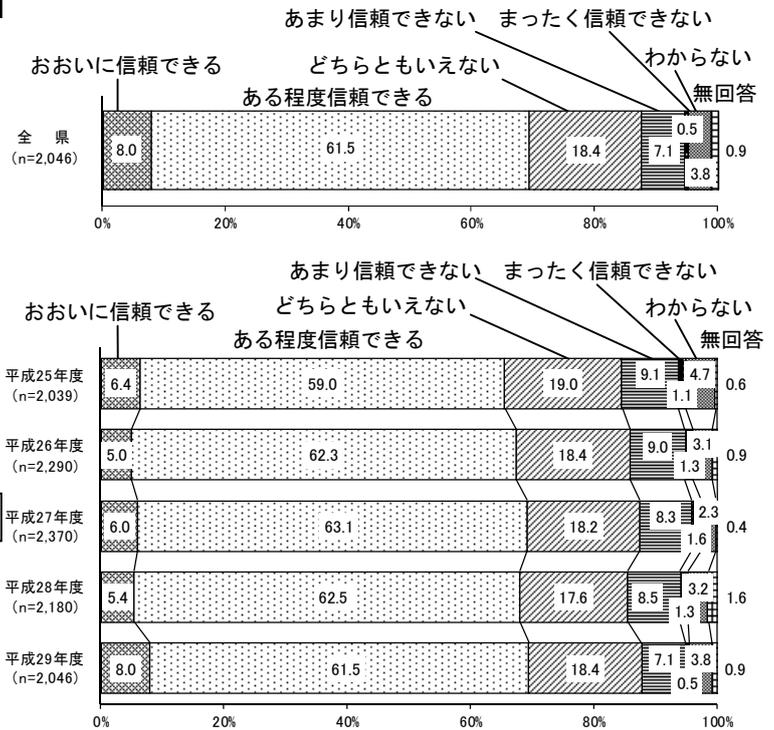
Q19 あなたは、県内で購入する食品の安全性について、どの程度信頼できると思いますか。

食品の安全性に関する意識

- 「おいに信頼できる」と「ある程度信頼できる」を合わせた69.5%が県内で購入する食品の安全性を信頼できる人、「まったく信頼できない」と「あまり信頼できない」を合わせた7.6%は県内で購入する食品の安全性を信頼できない人で、県内で購入する食品の安全性を信頼できる人が、信頼できない人のおおよそ9倍となっている。

経年比較

- 「おいに信頼できる」と「ある程度信頼できる」を合わせた割合は6割台後半で推移している。



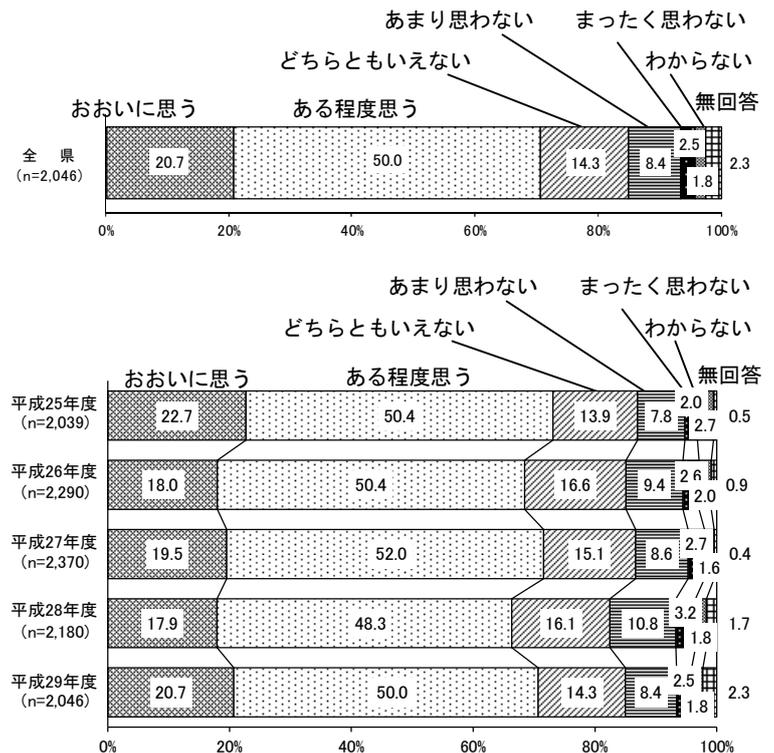
Q20 あなたは、自分が住んでいる地域の景観を誇りに思いますか。

地域の景観への誇り

- 「おいに思う」と「ある程度思う」を合わせた70.7%が自分が住んでいる地域の景観を誇りに思う人、「まったく思わない」と「あまり思わない」を合わせた10.9%が自分が住んでいる地域の景観を誇りに思わないとしており、自分が住んでいる地域の景観を誇りに思う人は思わない人の7倍となっている。

経年比較

- 「おいに思う」と「ある程度思う」を合わせた思う人の割合は減少傾向であったが、今年度は増加した。



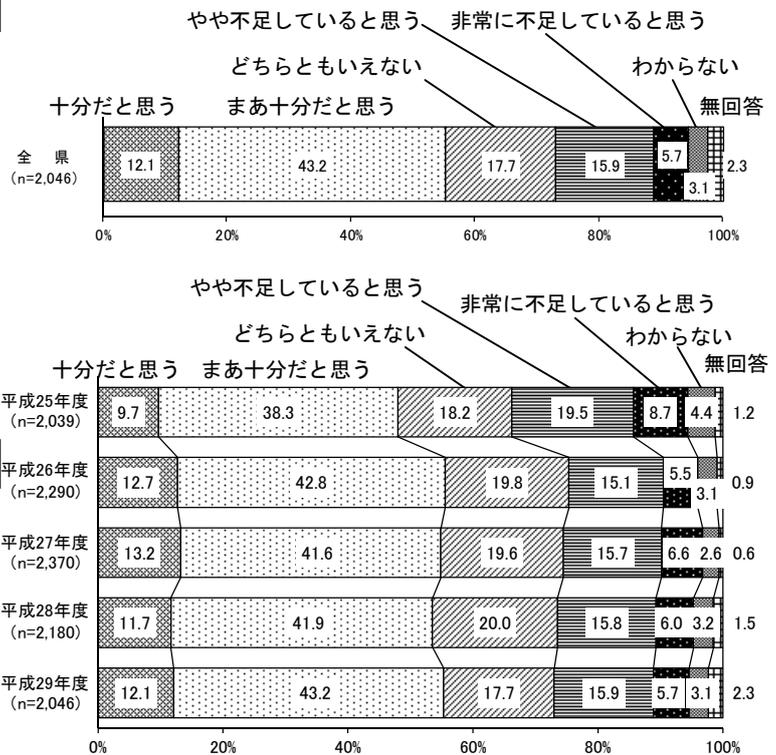
Q21 あなたの身近にある公園や歩道などの花や緑の量は十分だと思いますか。

花や緑の量

- 「十分だと思う」と「まあ十分だと思う」を合わせた 55.3%が、花や緑の量が十分だと思う人、「非常に不足していると思う」と「やや不足していると思う」を合わせた 21.6%が、花や緑の量が不足していると思う人で、花や緑の量が十分だと思う人が、不足していると思う人の2倍以上となっている。

経年比較

- 「十分だと思う」と「まあ十分だと思う」を合わせた割合は5割台で推移している。



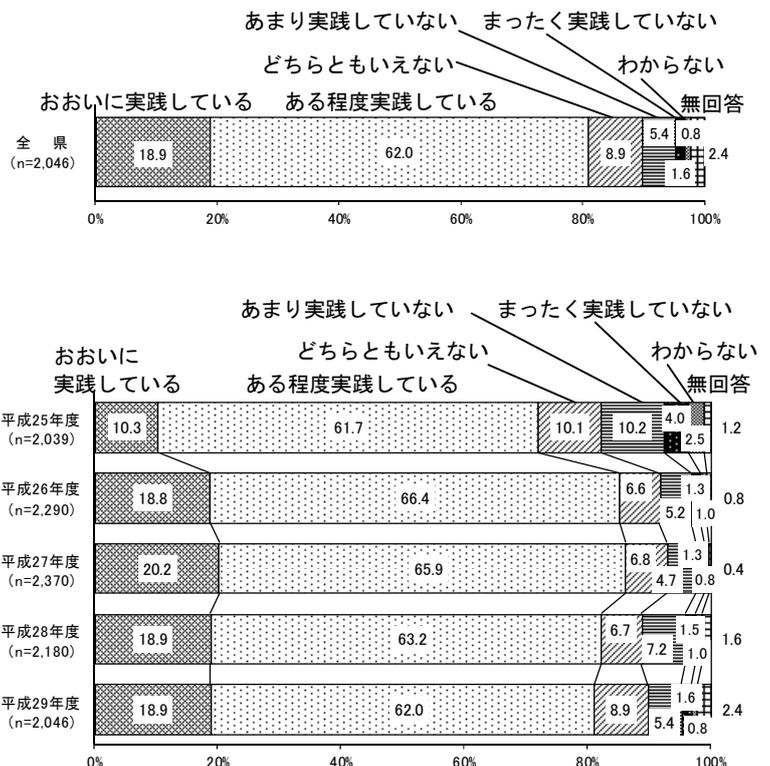
Q22 あなたは、節電や節水、家庭ごみの分別、マイバッグの持参、低燃費車や省エネ家電への切り替え、エコドライブ、清掃活動への参加、緑化など、環境への配慮を実践していますか。

環境保全活動の実践

- 「おおいに実践している」と「ある程度実践している」を合わせた 80.9%が、環境を守るための活動を実践している人、「まったく実践していない」と「あまり実践していない」を合わせた割合 7.0%が、環境を守るための活動を実践していない人で、環境を守るための活動を実践している人が、実践していない人の11倍以上となっている。

経年比較

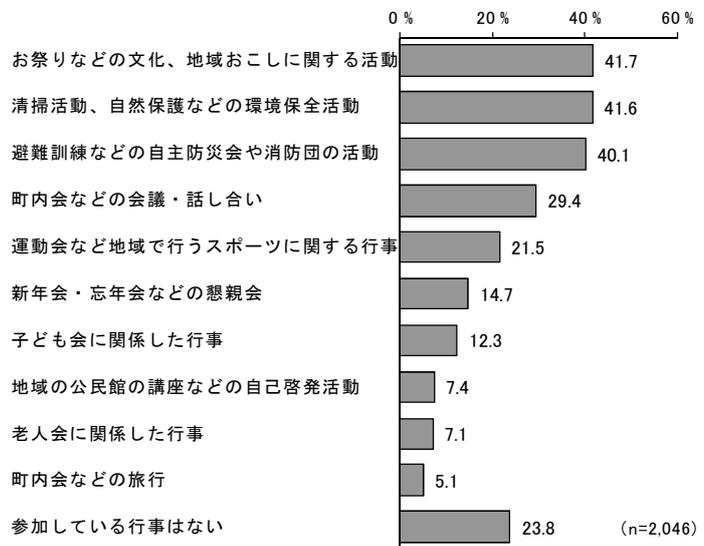
- 「おおいに実践している」と「ある程度実践している」を合わせた割合は、平成26年度以降は8割台で推移している。



Q23 あなたは地域のどのような行事や活動に参加していますか。(M.A.)

参加している地域の行事や活動

- 「お祭りなどの文化、地域おこしに関する活動」が41.7%と最も高くなっている。以下、「清掃活動、自然保護などの環境保全活動」が41.6%、「避難訓練などの自主防災会や消防団の活動」が40.1%の順になっている。一方、「参加している行事はない」は23.8%となっている。(右図は上位10位と「参加している行事はない」)



Q24

あなたは、多くの人々が利用する施設（公共施設、鉄道駅、ショッピングセンターなど）や日常生活で使う製品、文字が大きく読みやすい新聞や音声案内で操作しやすい家電製品など、身の回りにおいて、障害のある人や高齢者、妊婦、外国人など、誰もが暮らしやすい「ユニバーサルデザイン」による社会づくりが進んでいると思いますか。

「ユニバーサルデザイン」の主な事例

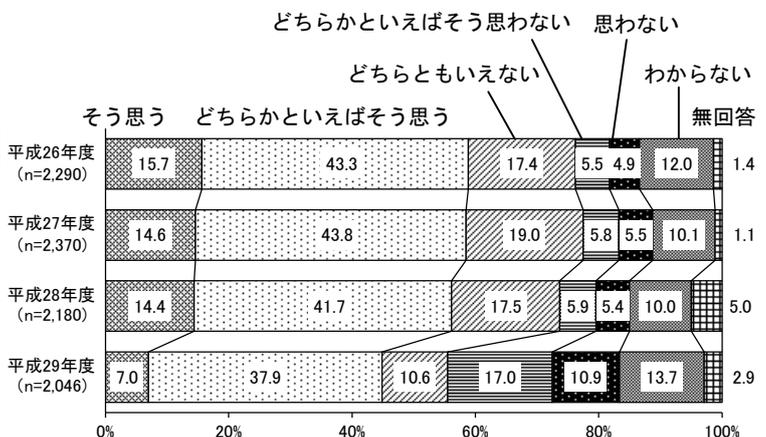
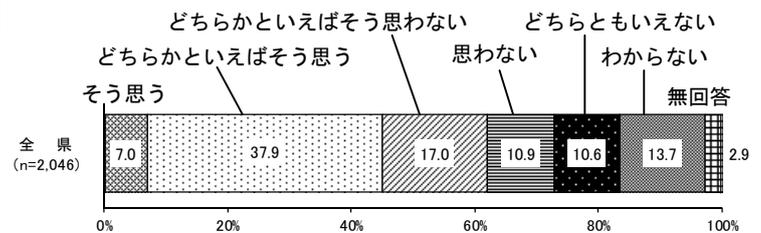
・エレベーターやエスカレーター、スロープ、多機能トイレなどの整備 ・分かりやすいイラストや英語、中国語などが表記された案内表示（サイン）・電車やバス内の電光掲示板・高齢者や障害のある方が参加できるスポーツ大会など

ユニバーサルデザインによる社会づくり

- 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた、ユニバーサルデザインによる社会づくりが進んでいると思う人が44.9%、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた、ユニバーサルデザインによる社会づくりが進んでいると思わない人が27.9%となっている。

経年比較

- 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせたユニバーサルデザインによる社会づくりが進んでいると思う割合は、今年度5割以下となり、減少傾向にある。



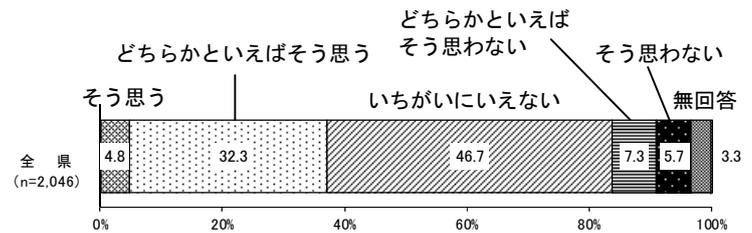
Q25

あなたは、今の静岡県が「人権尊重の意識が生活の中に定着した住みよい県」と感じますか。

※「人権尊重の意識」・・・人権は、私たち一人ひとりの生命や自由・平等を保障し、日常生活を支えている大切な権利で、日本国憲法にも保障されています。この権利を尊重し、私たち一人ひとりが自分や他者を大切にしようとする意識のことをいいます。

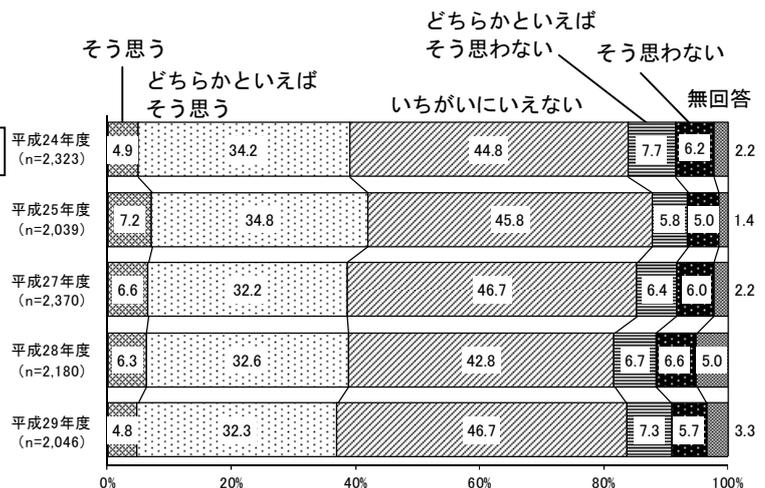
人権尊重の意識

- 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた37.1%が、人権尊重の意識が生活の中に定着した住みよい県になっていると思う人、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた13.0%が、人権尊重の意識が生活の中に定着した住みよい県になっていないと思わない人で、思う人は、思わない人のおよそ3倍となっている。



経年比較

- 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた人権尊重の意識が生活の中に定着した住みよい県になっていると思う人の割合は4割前後で推移している。

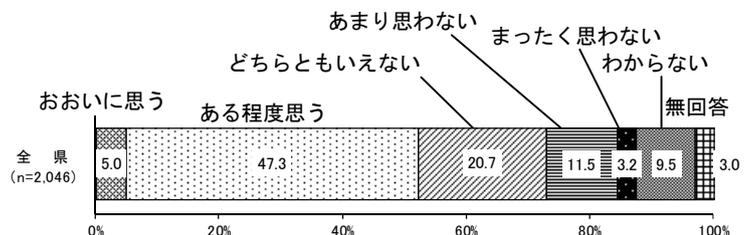


Q26

あなたがお住まいのまちは、子どもを生き育てやすいところだと思いますか。

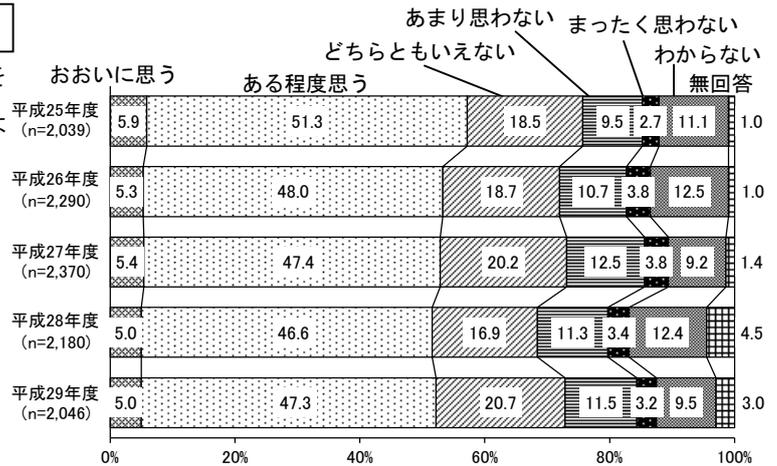
子どもを生き、育てやすさ

- 「おおいに思う」と「ある程度思う」を合わせた52.3%が、子どもを生き、育てやすいところだと思う人、「まったく思わない」と「あまり思わない」を合わせた14.7%が、子どもを生き、育てやすいところと思わない人で、子どもを生き、育てやすいところだと思う人が、思わない人の3倍以上になっている。



経年比較

- 「おおいに思う」と「ある程度思う」を合わせた割合は、5割台で大きな変化はない。

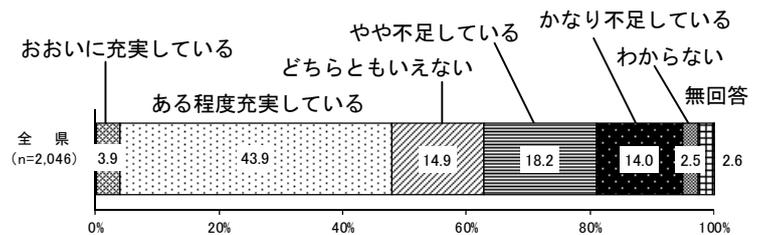


Q27

あなたがお住まいのまちや最寄りの都市では、商業、金融、情報、医療、交通、娯楽などあなたが必要だと思う機能が充実していると思いますか。

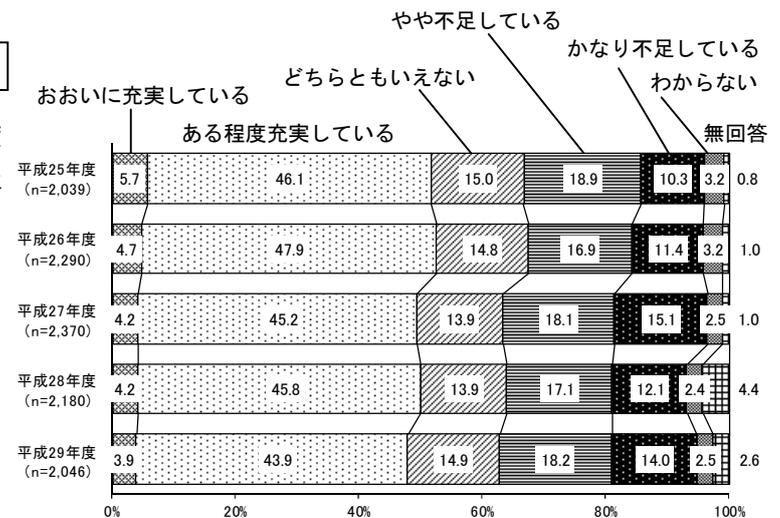
都市機能

- 「おおいに充実している」と「ある程度充実している」を合わせた 47.8%が、住まいのまちや最寄りの都市の機能が充実していると思う人、「かなり不足している」と「やや不足している」を合わせた 32.2%が、住まいのまちや最寄りの都市の機能が不足していると思う人で、住まいのまちや最寄りの都市の機能が充実していると思う人の方が高くなっている。



経年比較

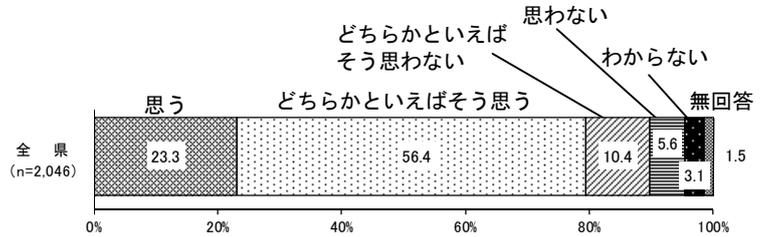
- 「おおいに充実している」と「ある程度充実している」を合わせた割合は、今年度5割以下となった。



Q28 あなたの住まいの地域は、住みよいところだと思いますか。

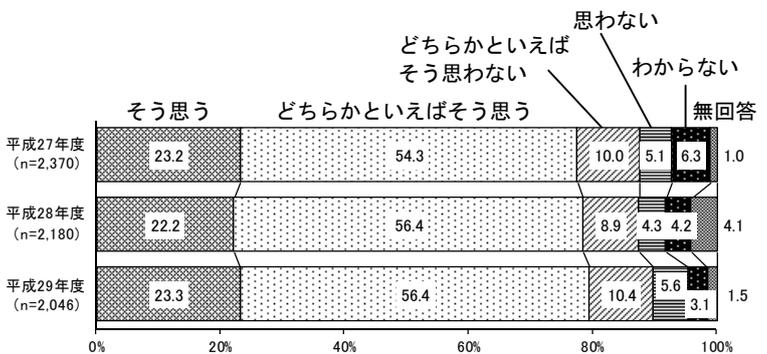
住みやすさの満足度

- 「思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた79.7%が、住んでいる地域を住みよいところと思う人、「思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた16.0%が、住んでいる地域を住みよいところと思わない人で、住んでいる地域を住みよいところと思う人は思わない人の約5倍になっている。



経年比較

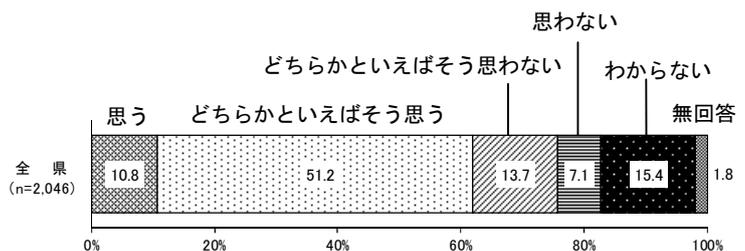
- 「思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた、住んでいる地域を住みよいところと思う人は、7割台で推移している。



Q29 あなたの住まいの地域は、地域の絆や支え合いの仕組みが形成されていると思いますか。

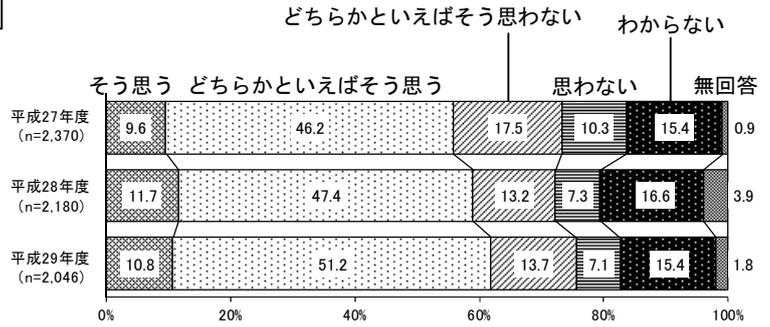
地域の絆や支え合い

- 「思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた62.0%が、地域の絆や支え合いの仕組みが形成されていると思う人、「思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた20.8%が、地域の絆や支え合いの仕組みが形成されていると思わない人で、地域の絆や支え合いの仕組みが形成されていると思う人は思わない人の約3倍になっている。



経年比較

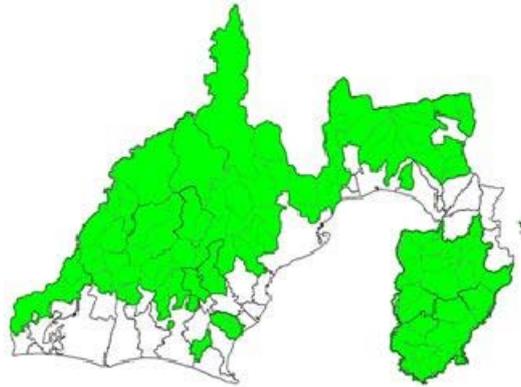
- 「思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた、地域の絆や支え合いの仕組みが形成されていると思う人の割合は、増加傾向にある。



Q30 あなたは、中山間地域に住みたいと思いますか。(中山間地域にお住まいの方は、住み続けたいと思いますか。)

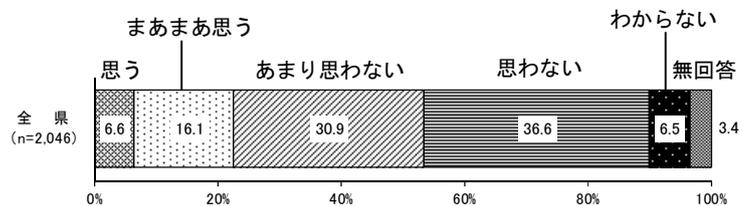
※「中山間地域」とは、「平野の周辺部から山間部に至る地域」で、農林業を主な産業としている地域のことをいいます。

※県内の中山間地域のイメージは図（網掛け部分）のとおりです。



中山間地域での生活意向

- 「思う」と「まあまあ思う」を合わせた22.7%が、静岡県内の中山間地域に住みたいと思う人、「思わない」と「あまり思わない」を合わせた67.5%が、静岡県内の中山間地域に住みたいと思わない人で、静岡県内の中山間地域に住みたいと思わない人が思う人の3倍になっている。

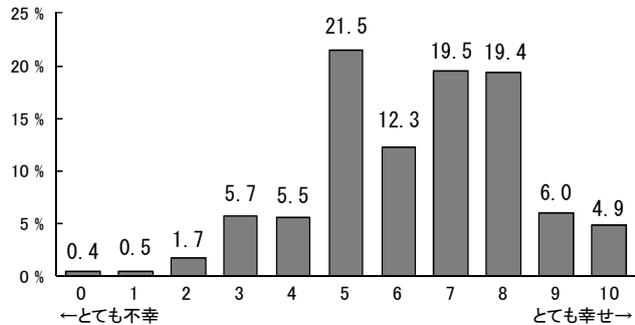


県民幸福度に関する意識について

Q31 あなたは現在、どの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。

幸福度の認識

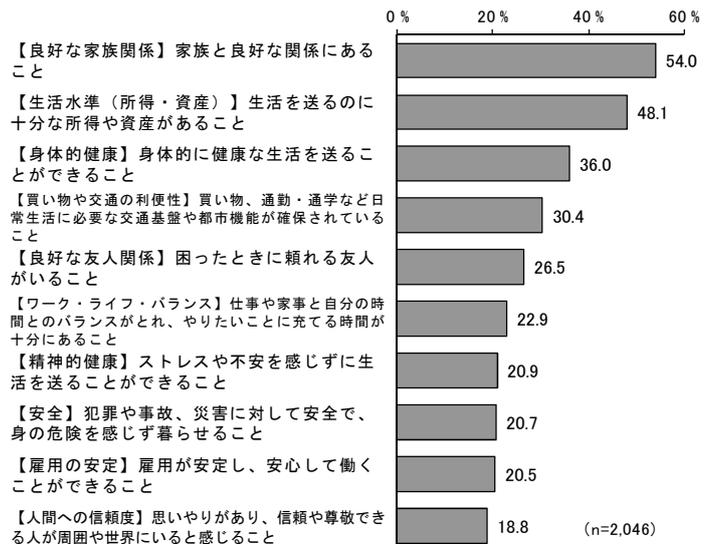
- 現在、どの程度幸せかをたずねたところ、「5点」と回答した人が21.5%、以下、「7点」が19.5%、「8点」が19.4%、「6点」が12.3%という順になっている。



Q32 あなたが幸福感を判断する上で、重視した事項はなんですか。(5.M.A.)

幸福感の判断に重視した事項

- 「【良好な家族関係】家族と良好な関係にあること」が54.0%で最も高くなっている。以下、「【生活水準（所得・資産）】生活を送るのに十分な所得や資産があること」が48.1%、「【身体的健康】身体的に健康な生活を送ることができること」が36.0%、「【買い物や交通の利便性】買い物、通勤・通学など日常生活に必要な交通基盤や都市機能が確保されていること」が30.4%の順となっている。

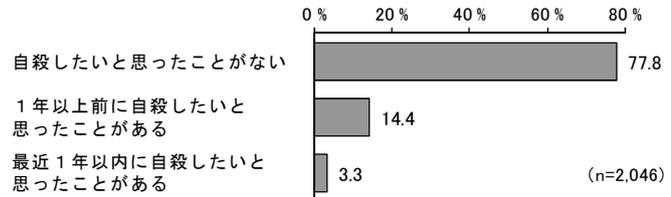


自殺対策に関する意識について

Q33 あなたは、これまでの人生の中で、本気で自殺をしたいと考えたことがありますか。(M.A.)

自殺を考えたことの有無

- 「自殺したいと思ったことがない」が77.8%で7割以上を占めている。「1年以上前に自殺したいと思ったことがある」が14.4%、「最近1年以内に自殺したいと思ったことがある」が3.3%となっている。

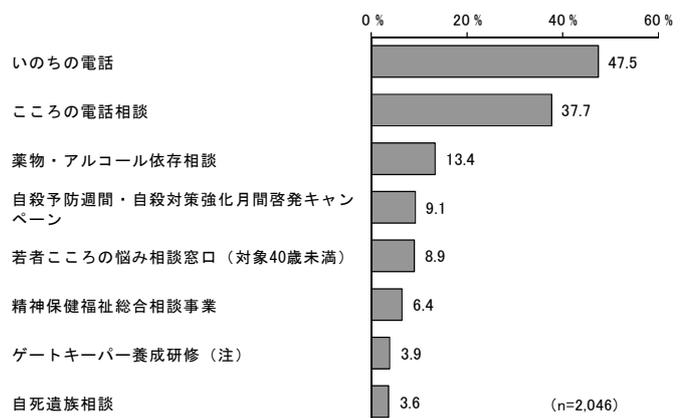


Q34 静岡県で実施している自殺対策を知っていますか。(M.A.)

自殺対策の認知度

- 「いのちの電話」が47.5%で最も高く、以下、「こころの電話相談」が37.7%、「薬物・アルコール依存相談」が13.4%の順となっている。

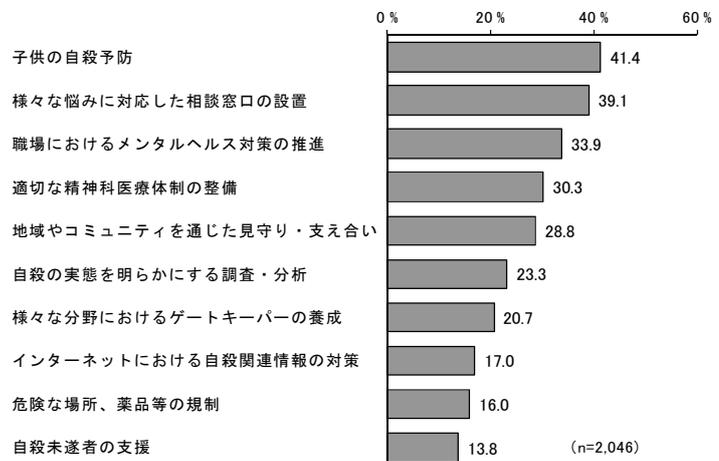
(注) ゲートキーパーとは、悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聴いて、必要な支援につなげ、見守る人のことです。



Q35 今後求められるものとして、どのような自殺対策が必要になると思いますか。(M.A.)

今後必要な自殺対策

- 「子どもの自殺予防」が41.4%で最も高く、以下、「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」が39.1%、「職場におけるメンタルヘルス対策の推進」が33.9%、「適切な精神科医療体制の整備」が30.3%、「地域やコミュニティを通じた見守り・支え合い」が28.8%、「自殺の実態を明らかにする調査・分析」が23.3%の順となっている。



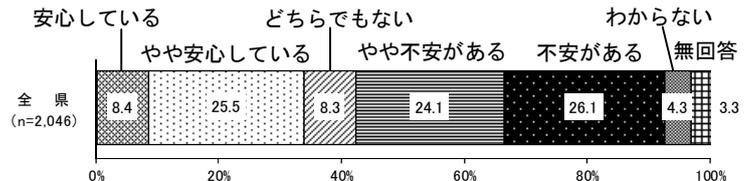
静岡県の社会資本整備に関する意識について

Q36

静岡県では東海地震等による津波や洪水の被害を最小限にするための対策を進めています。あなたが住んでいる地域は、津波や洪水、がけ崩れ等に対してどの程度安心だと感じていますか。

災害に対する安心感

- 「安心している」と「やや安心している」を合わせた 33.9%が、安心していると回答している。「不安がある」と「やや不安がある」を合わせた 50.2%が、不安があると回答しており、半数が不安を感じている。



Q37

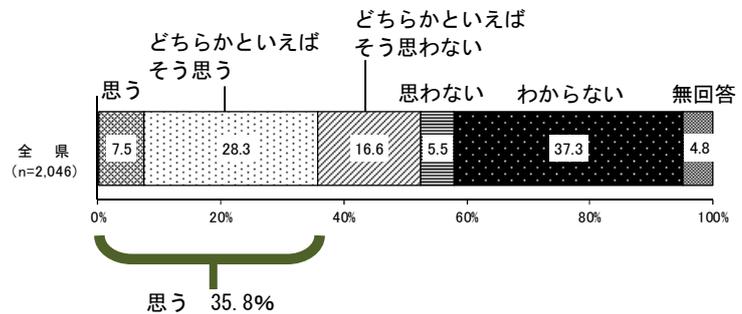
静岡県では道路や河川、港湾等といった様々な社会資本整備を進めています。静岡県の社会資本整備についてお伺いします。社会資本整備が役に立っていると思いますか。

SQ

次のうち、あなたが特に役に立っていると思うものに○を付けてください。(3.M.A)

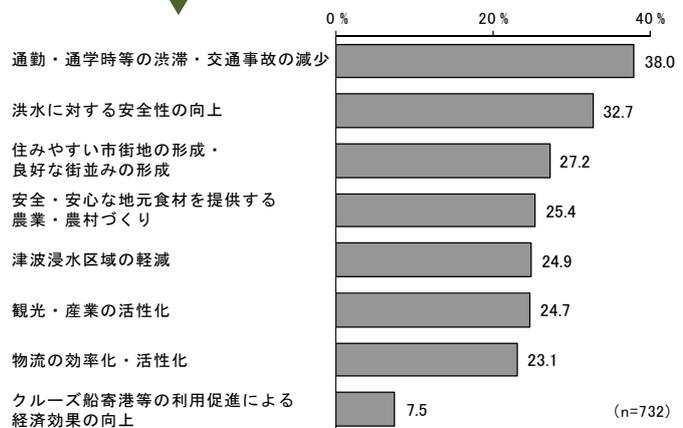
社会資本整備の有用性

- 「思う」と「どちらかといえば思う」を合わせた 35.8%が、思うと回答している。「思わない」と「どちらかといえば思わない」を合わせた 22.1%が、思わないと回答しており、思うと回答した人の方が高くなっている。



SQ 役に立っている社会資本整備

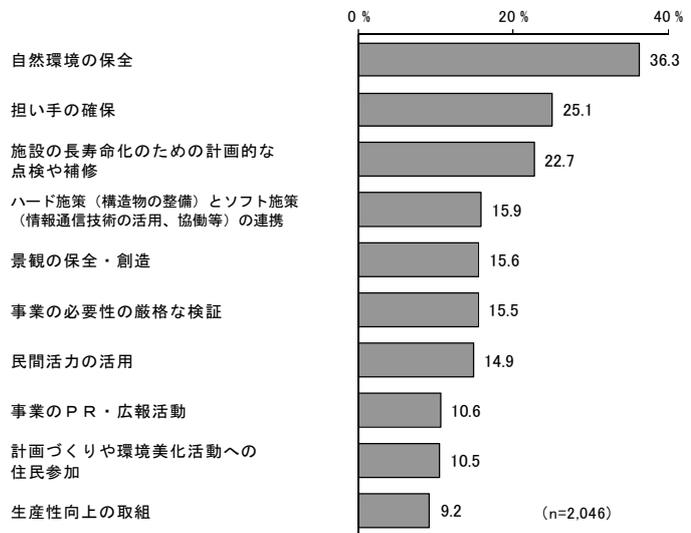
- 「思う」、「どちらかといえば思う」と回答した人に、特に役に立っている社会資本整備をたずねたところ、「通勤・通学時等の渋滞・交通事故の減少」が 38.0%で最も高くなっている。以下、「洪水に対する安全性の向上」が 32.7%、「住みやすい市街地の形成・良好な街並みの形成」が 27.2%、「安全・安心な地元食材を提供する農業・農村づくり」が 25.4%の順となっている。(その他・無回答を除く)



Q38 静岡県の社会資本の整備を進めるにあたり、あなたが特に必要だと思う取組はなんですか。(3.M.A)

社会資本整備に必要な取組

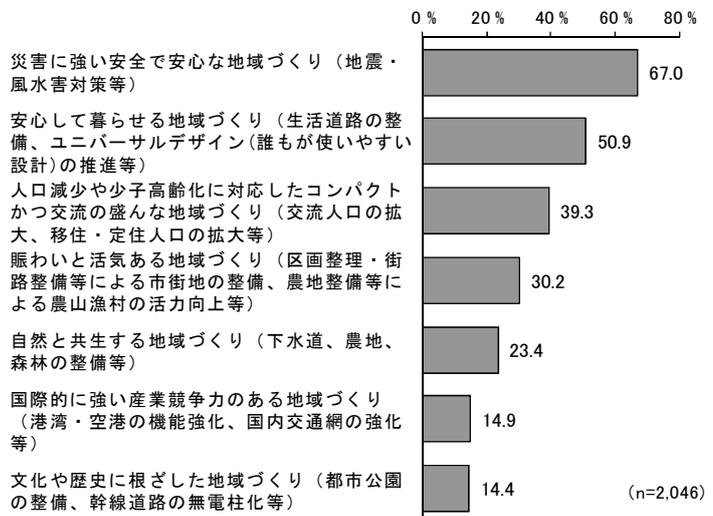
●「自然環境の保全」が36.3%と最も高く、以下、「担い手の確保」が25.1%、「施設の長寿命化のための計画的な点検や補修」が22.7%、「ハード施策（構造物の整備）とソフト施策（情報通信技術の活用、協働等）の連携」が15.9%の順となっている。（右図は上位10位）



Q39 より良い地域づくりのため、どのようなことに県が投資することを期待しますか。(3.M.A)

より良い地域づくりのための投資

●「災害に強い安全で安心な地域づくり（地震・風水害対策等）」が67.0%と最も高くなっている。以下、「安心して暮らせる地域づくり（生活道路の整備、ユニバーサルデザイン(誰もが使いやすい設計)の推進等）」が50.9%、「人口減少や少子高齢化に対応したコンパクトかつ交流の盛んな地域づくり（交流人口の拡大、移住・定住人口の拡大等）」が39.3%、「賑わいと活気ある地域づくり（区画整理・街路整備等による市街地の整備、農地整備等による農山漁村の活力向上等）」が30.2%の順となっている。



県政へのご意見をお待ちしています

○県民のこえ担当が直接お聞きします

県庁の全課（室）、また県のすべての出先機関にはそれぞれ、県民のこえ担当がおりますので、お気軽にどうぞ。

○時間が取れない・直接言いにくい・・・

手紙、はがき、ファクシミリ、電子メールでもご意見・ご提案・ご要望を受け付けています。

○県民のこえ意見箱

「県民のこえ意見箱」（意見用紙と料金受取人払封筒）を県内104箇所に設置しております。こちらもご利用ください。

<設置場所>

県庁、市町庁舎、県総合庁舎、県民生活センター、御殿場健康福祉センター、島田土木事務所、袋井土木事務所、御前崎港管理事務所、県立美術館、県立中央図書館、県男女共同参画センター、グランシップ、県立総合病院、県立こども病院、県立こころの医療センター、富士山静岡空港

<問合せ先>

静岡県知事戦略局広聴広報課県民のこえ班あて
電話:054-221-2235 FAX:054-254-2419
電子メール kenminnokoe@pref.shizuoka.lg.jp

静岡県相談窓口案内

電話 054-221-2292(ふじのくに)

月～金 8:30～18:00(祝日・年末年始を除く)

<http://www.pref.shizuoka.jp/kikaku/ki-120/soudan-madoguchi.html>
(携帯電話) http://www.pref.shizuoka.jp/m/koe_soudan/index.html

県庁の仕事や

担当部署のご案内、

県庁見学申込み

県庁案内

054-221-2455

月～金 8:30～18:00(祝日・年末年始を除く)

平成 29 年度

県政世論調査（概要報告書）

平成 29 年 11 月

編集・発行 静岡県知事戦略局広聴広報課 県民のこえ班
〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号
電話 (054) 221-2235
FAX (054) 254-2419
e-mail kenminnokoe@pref.shizuoka.lg.jp
